備後圏域「地域の未来予測」

備後圏域連携協議会

2024年（令和6年）6月

備後圏域「地域の未来予測」作成の趣旨

○ 備後圏域は、広島県三原市・尾道市・福山市（連携中枢都市）・府中市・竹原市・世羅町・神石高原町と岡山県笠岡市・井原市の7市2町で構成されています。本圏域では、防災や福祉等、様々な分野で広域的な課題について連携して取り組んできました。

○「地域の未来予測」とは、人口や施設・インフラのほか、子育て・教育、医療・介護などの分野において、地域が直面する変化や課題についての長期的な見通しを、客観的なデータに基づいて整理したものです。

○ 総務省の連携中枢都市圏構想推進要綱及び「地域の未来予測」に基づく広域連携推進要綱では、この「地域の未来予測」を活用し、住民等を巻き込みながら「めざす未来像」を議論し、その結果を様々な政策や計画に反映していくことが重要であるとされています。

○ 備後圏域連携協議会では、第3期びんご圏域ビジョン（計画期間：2025～2029年度）の策定にあたり、議論の材料とするため、備後圏域の各種推計を「地域の未来予測」として整理しました。

推計した分野の考え方について

○ 総務省「地域の未来予測に関する検討ワーキンググループ報告書」を参考に、人口構造の変化等を基礎とした長期的推計が可能で、行政サービスの提供に影響がある分野を推計対象としました。

○ 長期的・客観的な見通しのデータを提示することが困難な分野（観光、環境等）については、推計していません。

推計指標

分野	No.	指標	頁
人口	1	将来推計人口と年齢３区分比率	3
	2	人口ピラミッド	4
	3	メッシュ別人口	5
	4	総世帯数	7
施設インフラ	5	施設分類別公共施設の経過年数	8
子育て教育	6	０～５歳児数/３～５歳児数	9
	7	小学生数/中学生数	10
	8	大学進学者数	11
医療介護	9	医療需要	12
	10	人口10万人対医師数	13
	11	介護需要	15

分野	No.	指標	頁
公共交通	12-1	駅から半径800m圏内の人口	16
	12-2	駅から半径800m圏内の人口（鉄道路線別）	17
	13	バス停から半径300m圏内の人口	18
衛生	14	有収水量（生活用水）	19
	15	家庭ごみ排出量	20
防災消防	16	避難行動要支援者数	21
	17	救急搬送人員	22
空間管理	18	空き家数	23
	19	耕地面積	24
	20	森林面積	25
経済	21	就業率	26
	22	産業別就業者数	27

※ この資料の作成においては、国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来推計人口（令和5 （2023）年推計）」の推計値を用いています。なお、数値の単位未満は、原則として四捨五入しているため、総数等と内訳の合計が一致しない場合があります。

※ 各指標における推計値は、総務省「地域の未来予測に関する検討ワーキンググループ報告書」で示された推計方法等で算出しており、既存の計画等と整合性を図るものではありません。

1 将来推計人口と年齢３区分比率

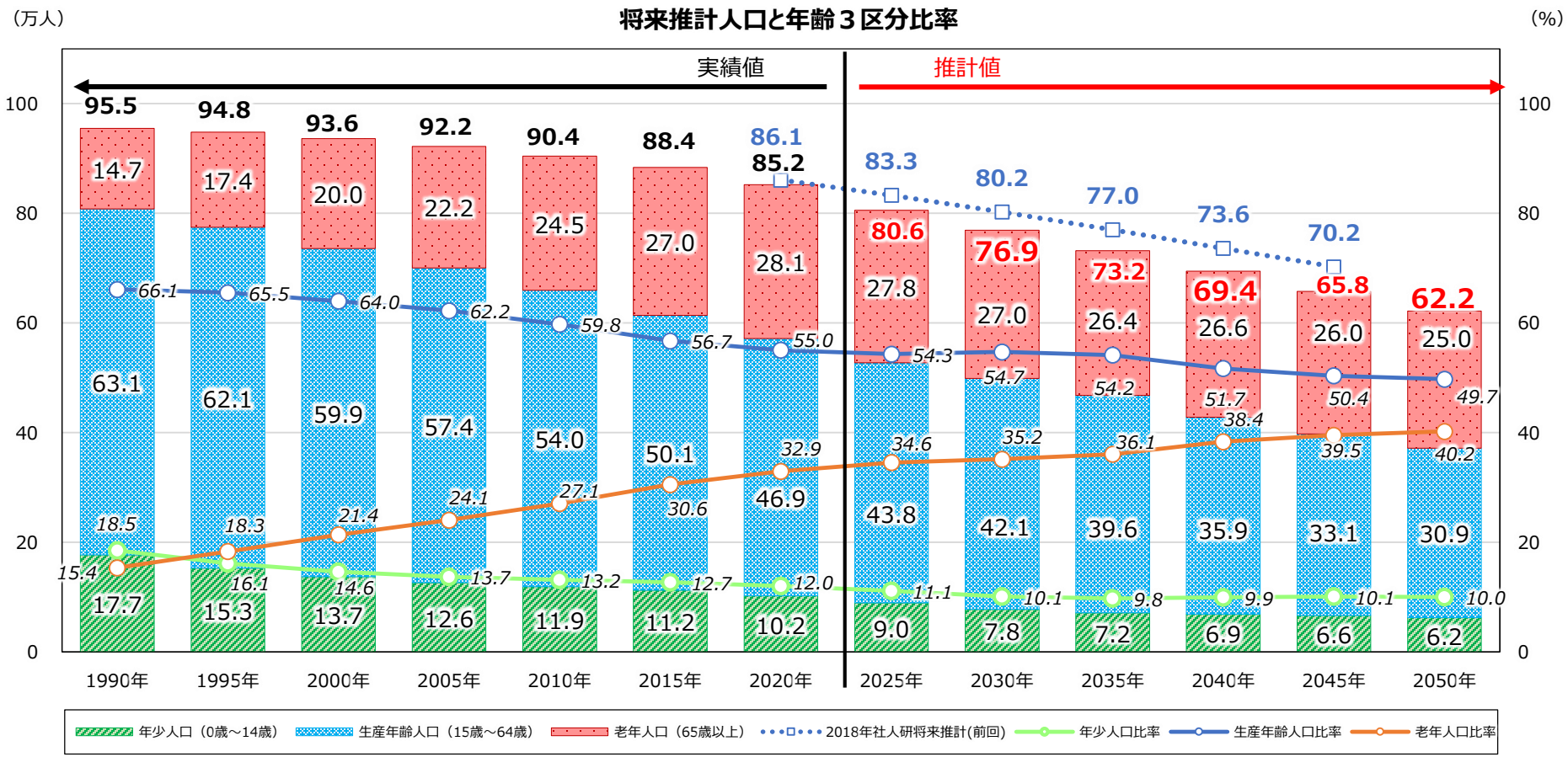
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、総務省「国勢調査」

推計手法の概要

- 市町別の将来推計人口から、圏域市町の推計値を合算して算出。

推計結果の概要

- 備後圏域の人口減少はこれまでを上回るペースで進むことが予想され、2020年以降、5年ごとに3万人以上の減少が続く。
- 備後圏域の人口は、2030年には80万人、2040年には70万人を下回り、2050年には62.2万人となる。
- 老年人口は、これまで増加を続けてきたが、2020年を境に減少傾向に転じる。一方、老年人口比率は、2020年以降も増加する。
- 前回（2018年）の推計結果と比較すると、2030年比で3.3万人、2040年比で4.2万人の減少となっており、より早いペースで人口減少が進む。



※年齢「不詳」の者の数は、不詳以外の年齢3区分の構成比に応じたあん分等により補完している（以下同じ。）。

2 人口ピラミッド

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、総務省「令和2年国勢調査」

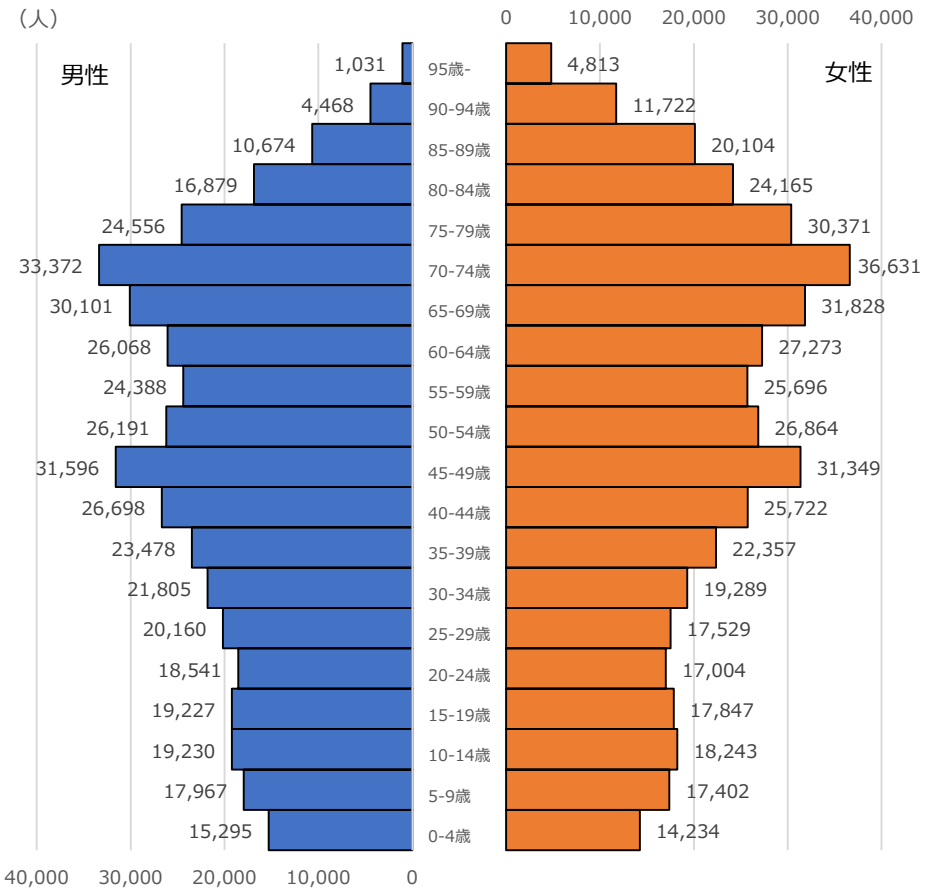
推計手法の概要

- 市町別の年齢階層別将来推計人口を合算して算出。

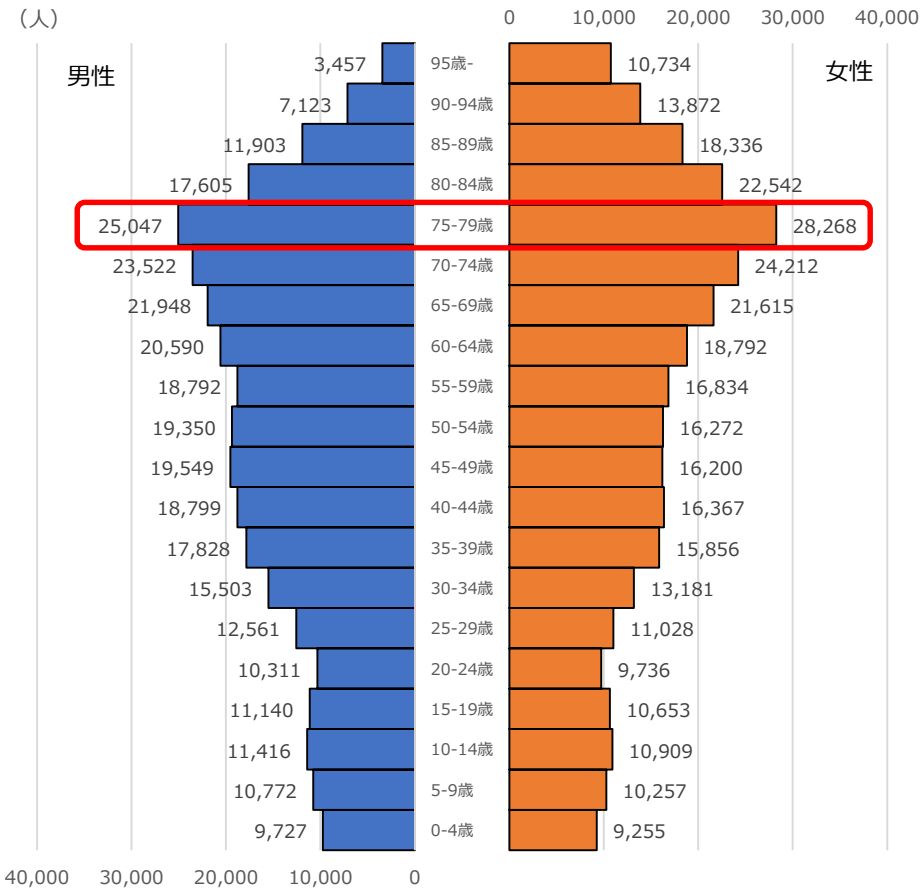
推計結果の概要

- 人口ピラミッドは、人口減少に伴い徐々に小さくなっていくと予想される。
- 人口のボリュームゾーンが年々高くなり、2050年には75-79歳が最も人口の多い年齢階層になると予想される。

2020年人口ピラミッド



2050年人口ピラミッド



3 メッシュ別人口

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、総務省「令和2年国勢調査」

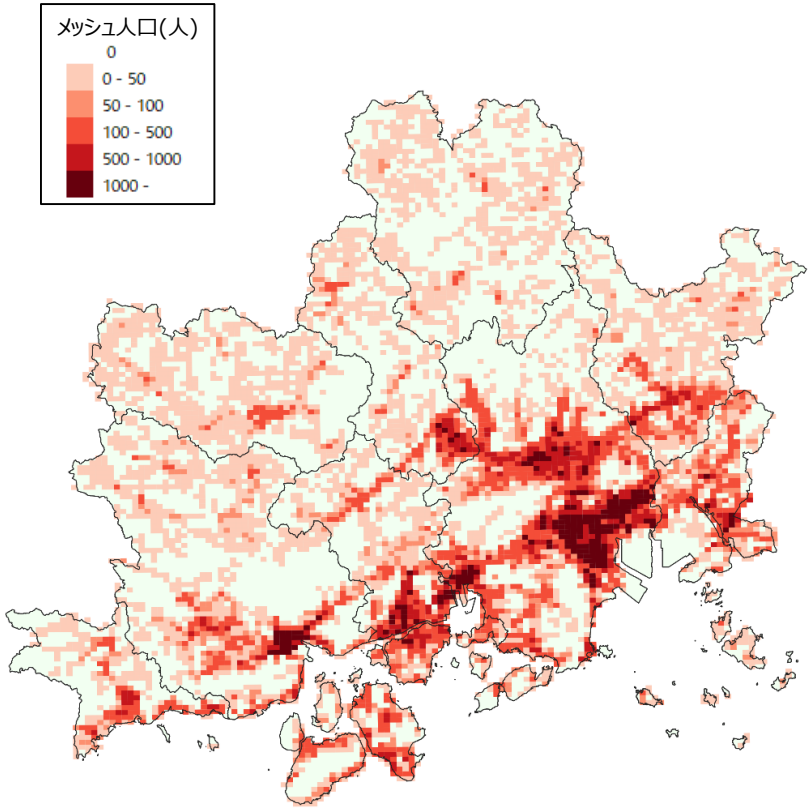
推計手法の概要

- 市町別の人口分布（500m四方メッシュ別の人口比）に、市町別・年齢階層別の将来推計人口の増減率を乗じて推計。

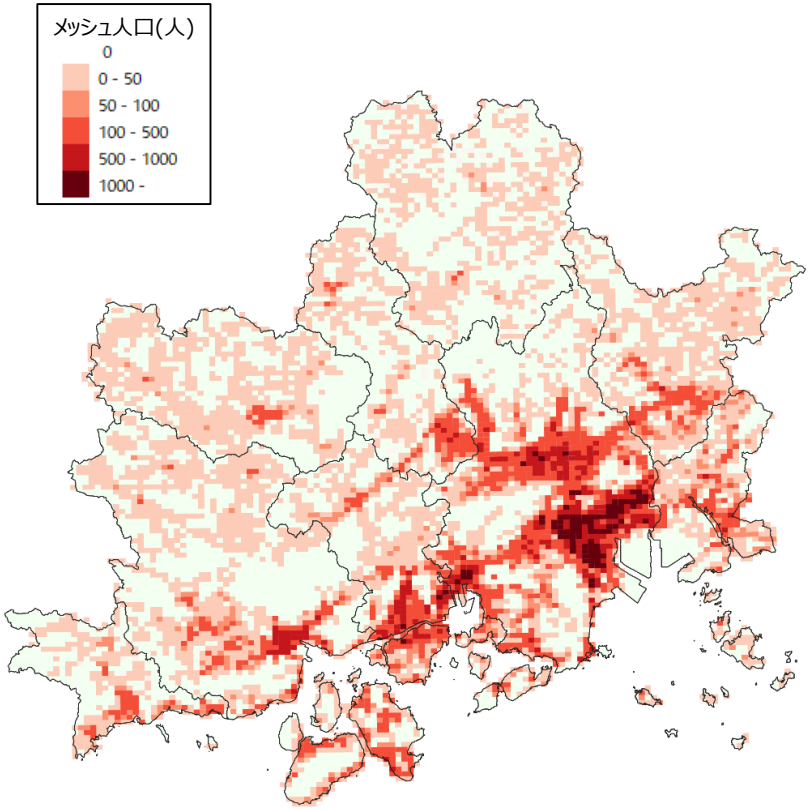
推計結果の概要

- 備後圏域の人口は、市町中心部だけでなく、中山間地域などにおいても人口が減少すると予想される。
- 人口増減率では、市町中心部と比べ、中山間地域や島しょ地域において、減少率が大きくなると予想される。

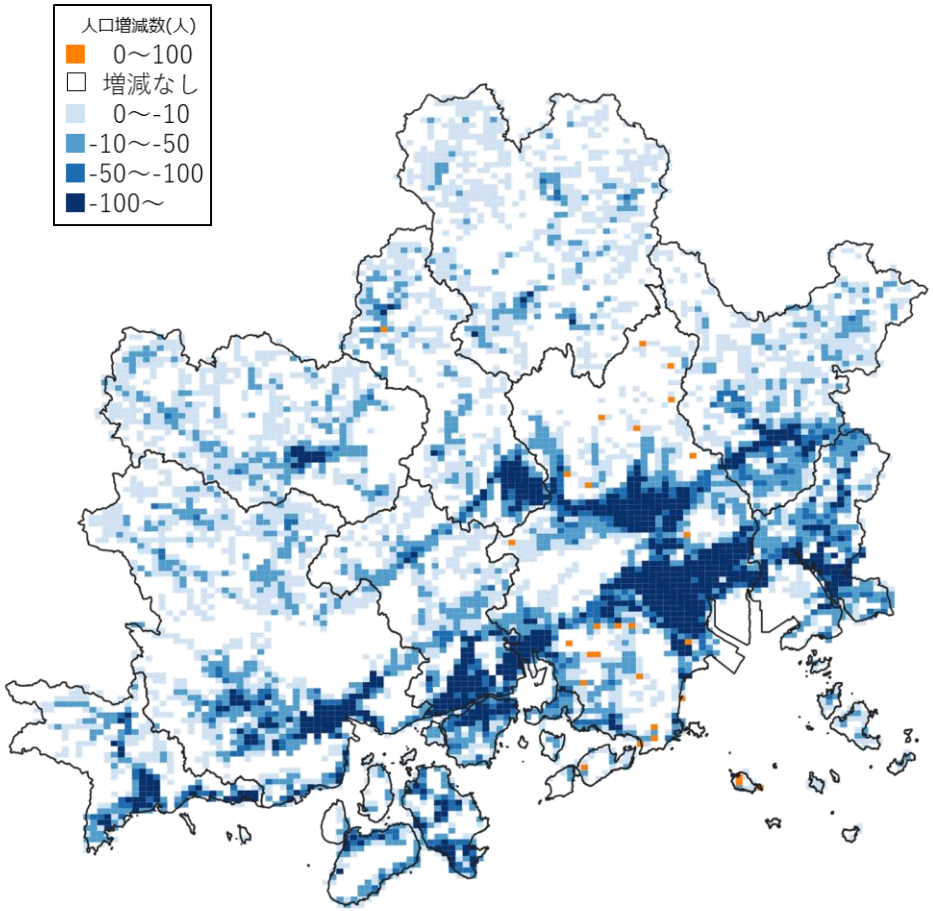
2020年メッシュ人口



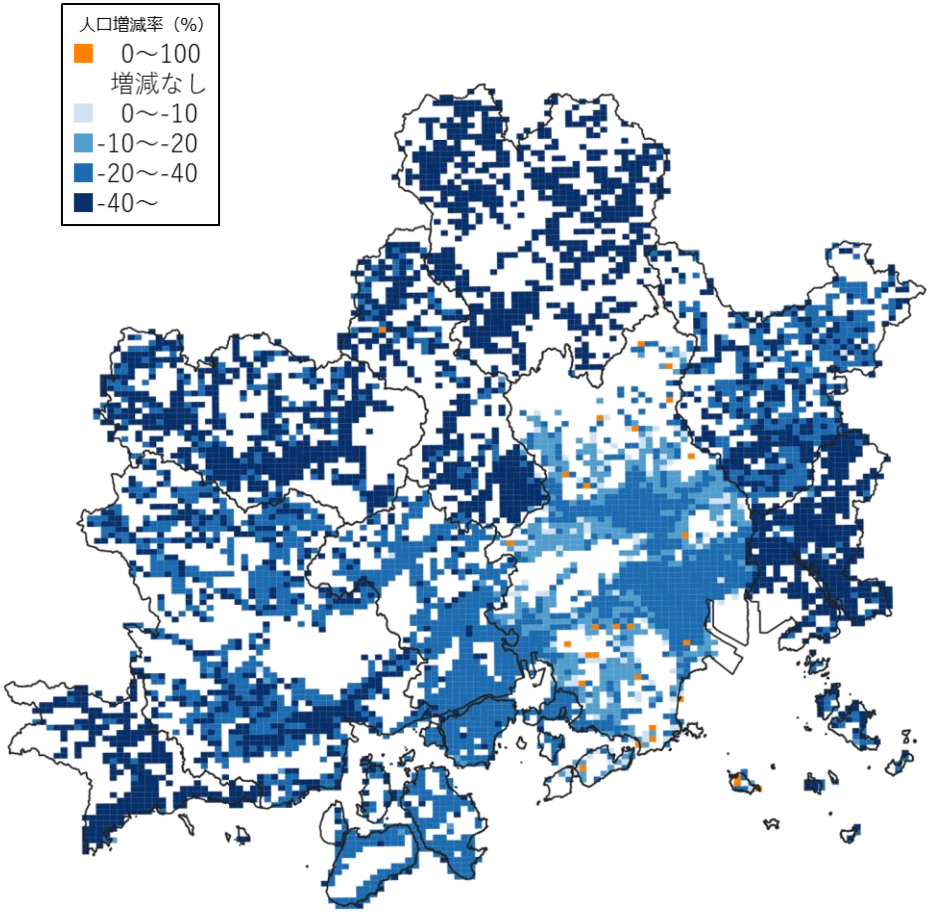
2050年メッシュ人口



2020年から2050年の人口増減数



2020年から2050年の人口増減率



4 総世帯数

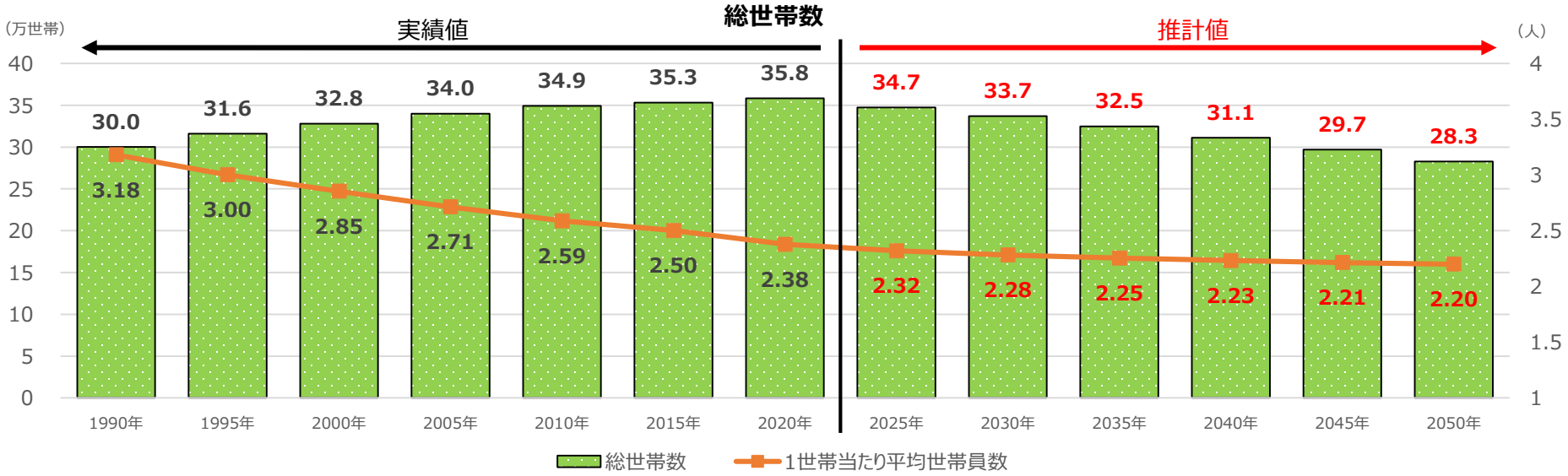
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、総務省「住民基本台帳人口」、総務省「国勢調査」

推計手法の概要

- 直近5年の1世帯当たり人員から将来の1世帯当たり人員を推計。市町別の将来推計人口を将来の1世帯当たり人員で除して推計。

推計結果の概要

- 備後圏域の総世帯数は、2050年には2020年と比べ、約7万6,000世帯減少すると予想される。
- 単身世帯（未婚・一人暮らし高齢者等）の増加等により、総世帯数の減少率は、人口減少と比べて緩やかになると予想される。



総世帯数の内訳

（世帯）

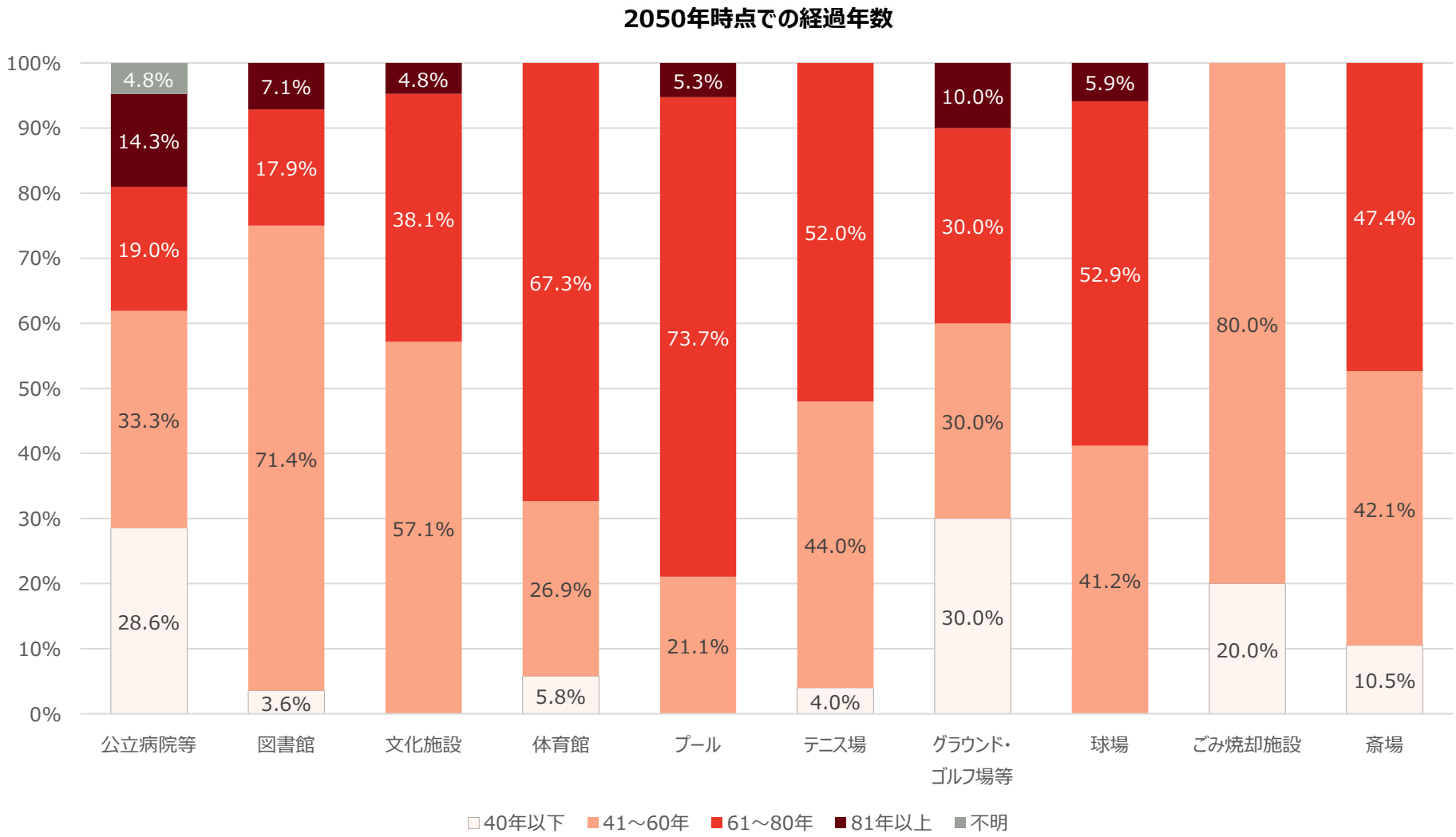
	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
三原市	35,743	36,946	38,499	39,918	40,247	39,888	39,091	36,654	34,704	32,579	30,399	28,235	26,107
尾道市	55,032	55,892	57,076	58,132	58,772	57,759	57,519	55,657	53,060	50,199	47,205	44,268	41,455
福山市	139,166	151,172	159,740	168,728	178,718	185,555	193,371	190,880	189,451	186,620	182,736	178,253	173,436
府中市	15,525	15,685	15,563	15,384	15,122	15,039	15,030	13,991	13,036	12,024	11,011	10,009	9,045
竹原市	11,666	11,931	11,956	11,852	11,525	11,204	10,682	9,829	9,005	8,139	7,257	6,419	5,661
世羅町	6,466	6,512	6,493	6,588	6,504	6,242	6,085	5,771	5,389	5,009	4,631	4,247	3,876
神石高原町	4,305	4,220	4,175	4,049	3,753	3,533	3,339	3,058	2,750	2,467	2,204	1,945	1,707
笠岡市	18,349	19,354	19,834	20,244	19,676	19,189	18,466	17,338	16,232	15,017	13,790	12,548	11,320
井原市	13,955	14,187	14,655	14,922	15,108	14,914	14,732	14,091	13,394	12,625	11,816	10,976	10,138
備後圏域	300,207	315,899	327,991	339,817	349,425	353,323	358,315	347,269	337,020	324,679	311,048	296,900	282,744

5 施設分類別公共施設の経過年数

出典：各市町公共施設等総合管理計画 等

概要

- 体育館やプール、テニス場、球場、斎場では、多くの施設が2050年に竣工から61年以上経過する。
- 2050年に竣工から81年以上経過する施設が複数存在する。



6 0～5歳児数／3～5歳児数

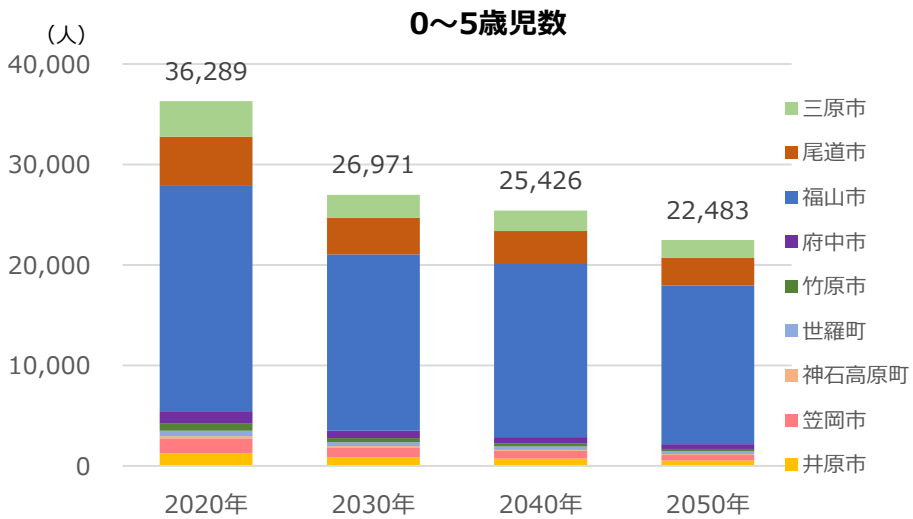
出典：総務省「令和2年国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

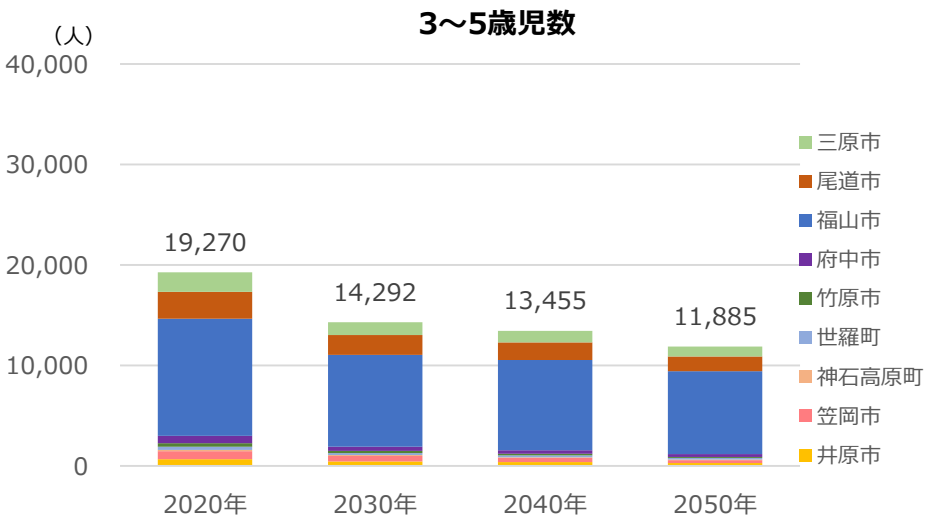
推計手法の概要

- 5歳階級別の将来推計人口に、国勢調査の各年齢人口比率を乗じて推計。

推計結果の概要

- 備後圏域の0～5歳児数・3～5歳児数は、2050年には2020年と比べ、それぞれ約38%減少すると予想される。





0～5歳児数の内訳　（人）

	2020年	2030年	2040年	2050年	2020-2050年の増減率
三原市	3,506	2,289	2,066	1,775	-49.4%
尾道市	4,928	3,632	3,252	2,730	-44.6%
福山市	22,398	17,555	17,233	15,808	-29.4%
府中市	1,248	708	598	482	-61.3%
竹原市	697	423	326	231	-66.8%
世羅町	551	381	338	277	-49.6%
神石高原町	224	146	110	77	-65.4%
笠岡市	1,475	973	767	554	-62.5%
井原市	1,262	865	735	548	-56.6%
備後圏域	36,289	26,971	25,426	22,483	-38.0%

3～5歳児数の内訳　（人）

	2020年	2030年	2040年	2050年	2020-2050年の増減率
三原市	1,952	1,275	1,150	988	-49.4%
尾道市	2,676	1,972	1,766	1,483	-44.6%
福山市	11,654	9,134	8,966	8,225	-29.4%
府中市	720	408	345	278	-61.3%
竹原市	363	220	170	120	-66.8%
世羅町	304	210	186	153	-49.6%
神石高原町	131	85	64	45	-65.4%
笠岡市	794	524	413	298	-62.5%
井原市	676	463	394	293	-56.6%
備後圏域	19,270	14,292	13,455	11,885	-38.3%

7 小学生数／中学生数

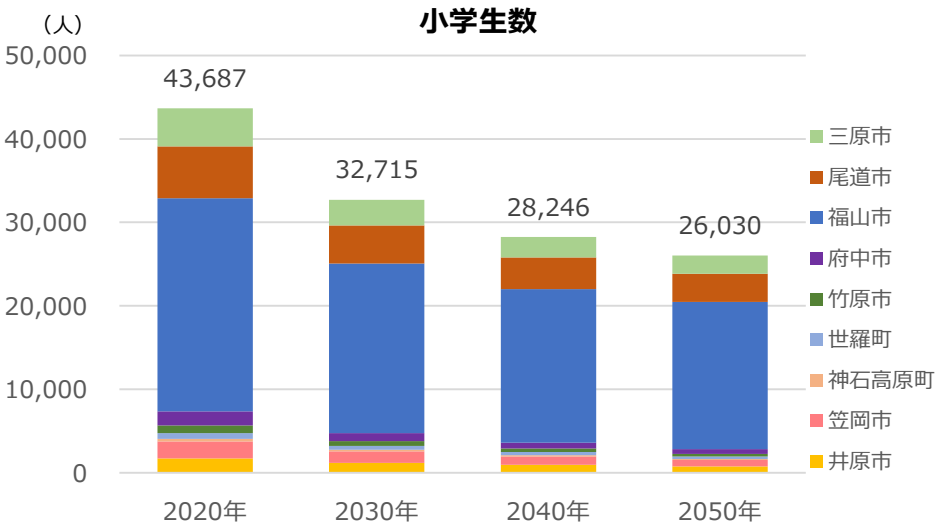
出典：総務省「令和2年国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

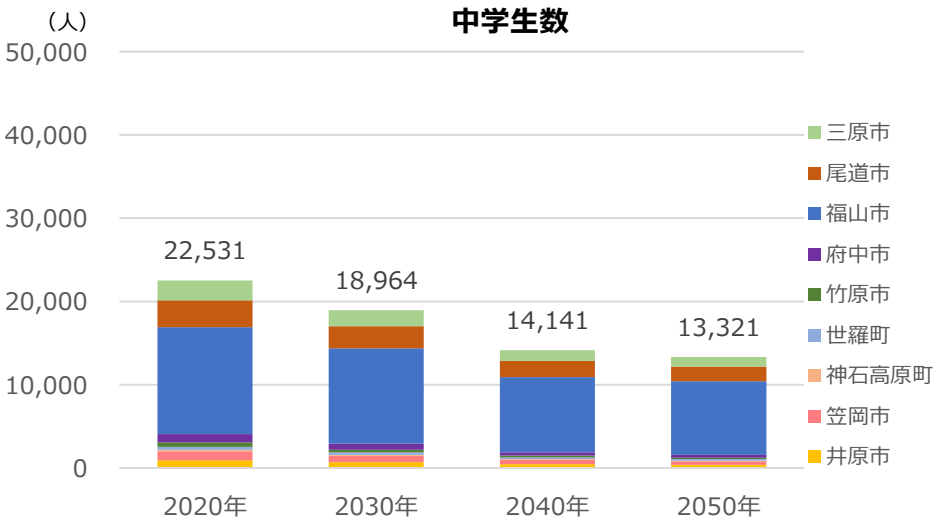
推計手法の概要

- 5歳階級別の将来推計人口に、国勢調査の各年齢人口比率を乗じて推計。

推計結果の概要

- 備後圏域の小学生数・中学生数は、2050年には2020年と比べ、それぞれ約40%減少すると予想される。





小学生数の内訳

（人）

	2020年	2030年	2040年	2050年	2020-2050年の増減率
三原市	4,588	3,077	2,446	2,202	-52.0%
尾道市	6,186	4,556	3,815	3,357	-45.7%
福山市	25,576	20,334	18,402	17,633	-31.1%
府中市	1,672	961	702	587	-64.9%
竹原市	930	573	404	295	-68.3%
世羅町	677	482	382	335	-50.4%
神石高原町	301	193	143	104	-65.5%
笠岡市	2,051	1,350	1,021	769	-62.5%
井原市	1,707	1,190	931	748	-56.2%
備後圏域	43,687	32,715	28,246	26,030	-40.4%

中学生数の内訳

（人）

	2020年	2030年	2040年	2050年	2020-2050年の増減率
三原市	2,378	1,942	1,261	1,139	-52.1%
尾道市	3,240	2,642	1,956	1,754	-45.9%
福山市	12,844	11,460	9,037	8,872	-30.9%
府中市	1,017	722	412	349	-65.7%
竹原市	512	321	202	155	-69.6%
世羅町	372	292	203	180	-51.5%
神石高原町	191	135	89	67	-65.1%
笠岡市	1,048	778	518	409	-61.0%
井原市	930	672	463	394	-57.6%
備後圏域	22,531	18,964	14,141	13,321	-40.9%

8 大学進学者数

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、広島県・岡山県「学校基本調査」

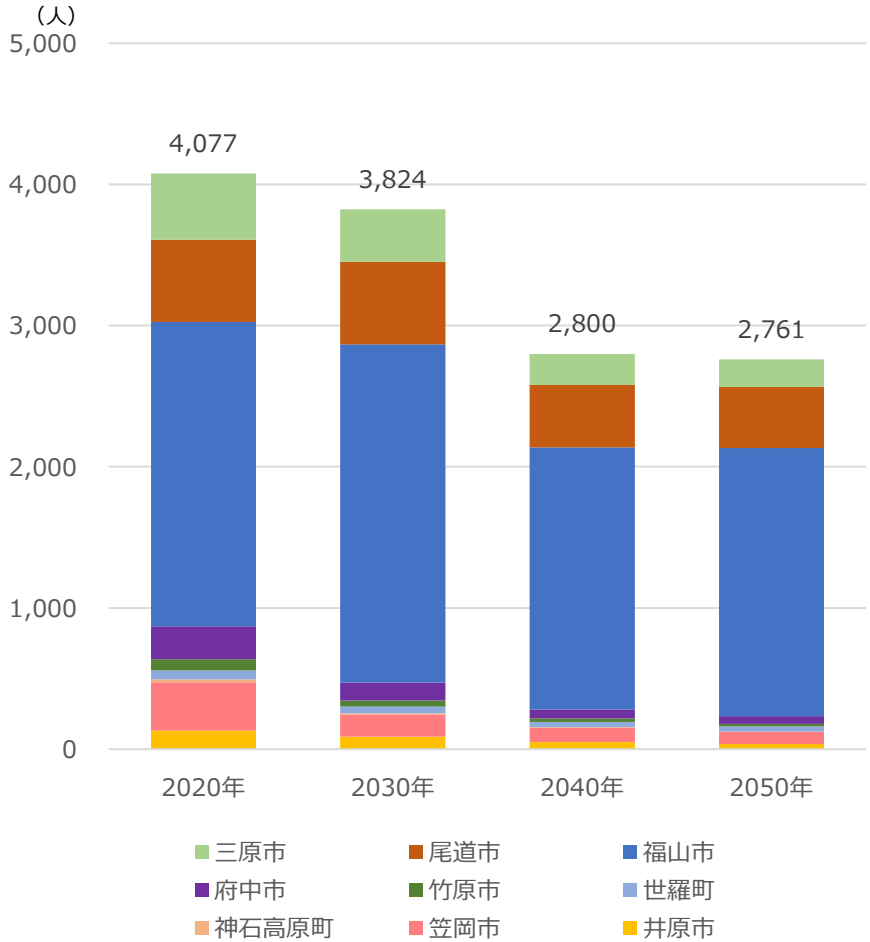
推計手法の概要

- 過去10年分の圏域市町の大学進学率から将来の大学進学率を算出し、将来推計人口を乗じて推計。
  ※進学先は圏域内外を問わない。

推計結果の概要

- 備後圏域の大学進学者数は、2050年には2020年と比べ、32.3%減少すると予想される。

大学進学者数



大学進学者数の内訳

（人）

	2020年	2030年	2040年	2050年	2020-2050年の増減率
三原市	470	373	221	197	-58.1%
尾道市	581	584	443	431	-25.8%
福山市	2,156	2,395	1,856	1,900	-11.9%
府中市	233	126	63	53	-77.3%
竹原市	80	44	25	19	-76.3%
世羅町	64	47	36	36	-43.8%
神石高原町	19	8	4	3	-84.2%
笠岡市	343	158	102	85	-75.2%
井原市	131	88	50	37	-71.8%
備後圏域	4,077	3,824	2,800	2,761	-32.3%

9 医療需要

出典：総務省「令和2年国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、日本医師会「地域医療情報サイト」

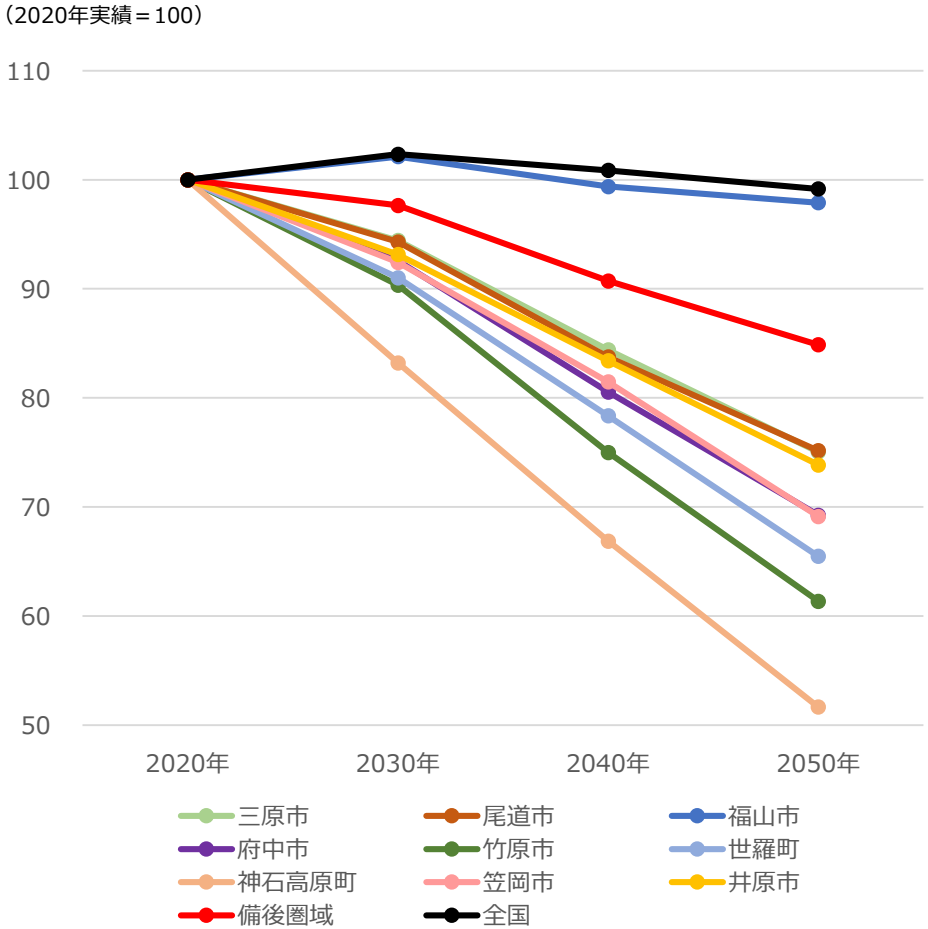
推計手法の概要

- 年齢階層別の将来推計人口に、日本医師会の医療需要推計に用いられる年齢区分別係数を乗じて推計。

推計結果の概要

- 備後圏域の医療需要は、2050年には2020年と比べ、15.1%減少すると予想される。
- 高齢者の増加等により、医療需要の減少率は人口減少と比べて緩やかになると予想される。

医療需要



医療需要の内訳

（2020年実績＝100）

	2020年	2030年	2040年	2050年	2020-2050年の増減率
三原市	100.0	94.4	84.4	75.0	-25.0%
尾道市	100.0	94.3	83.8	75.2	-24.8%
福山市	100.0	102.1	99.4	97.9	-2.1%
府中市	100.0	92.6	80.5	69.2	-30.8%
竹原市	100.0	90.3	75.0	61.3	-38.7%
世羅町	100.0	91.0	78.4	65.5	-34.5%
神石高原町	100.0	83.2	66.9	51.7	-48.3%
笠岡市	100.0	92.4	81.5	69.1	-30.9%
井原市	100.0	93.1	83.4	73.9	-26.1%
備後圏域	100.0	97.6	90.7	84.9	-15.1%
全国	100.0	102.3	100.9	99.2	-0.8%

※ **医療需要**：基準年（2020年）を100とし、将来の医療に係る需要の増減を推計したもの。

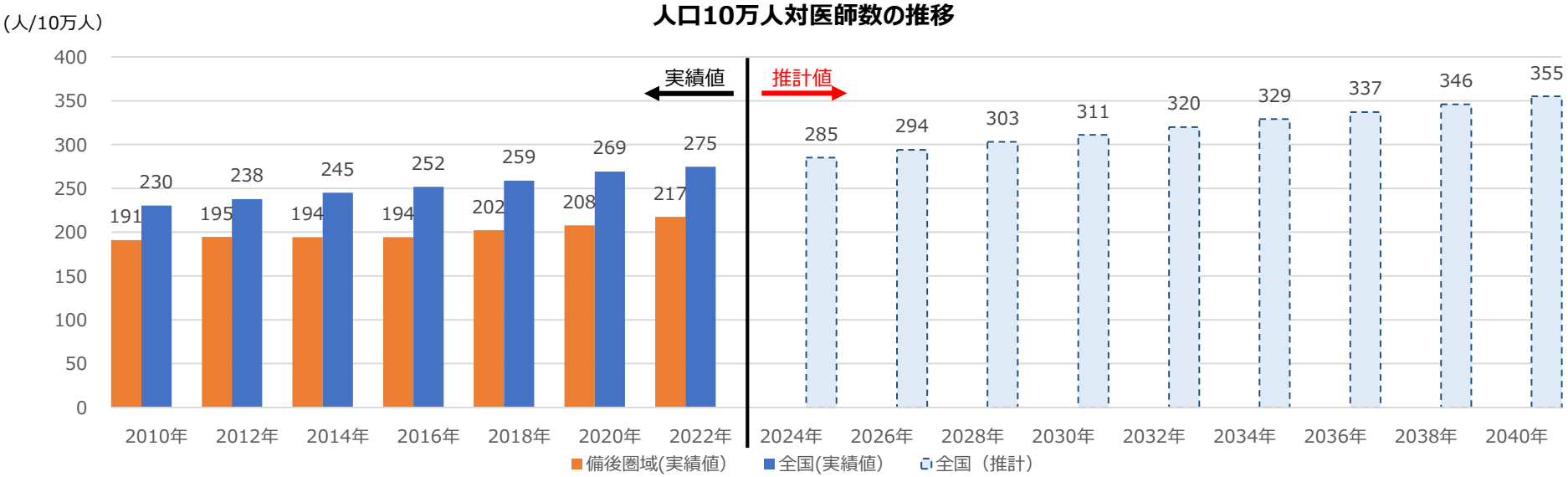
10 人口10万人対医師数

出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」「令和2年医師需給推計の結果」「医師偏在指標」、総務省「住民基本台帳人口」

概要

- 全国の人口10万人対医師数は、2010年から2022年までの実績及び2040年までの将来推計において一貫して増加している。
- 備後圏域の人口10万人対医師数は、2010年から2022年までの実績において微増している。
- 医師偏在指標では、備後圏域は全国と比較して低く、特に小児科医師・分娩取扱医師の医師偏在指標は全国でも下位に属する。
- 岡山県南西部二次保健医療圏の医師偏在指標は高いが、倉敷市の医師数の多さが影響しており、笠岡市・井原市の人口10万人対医師数は低い数値となっている。

人口10万人対医師数の推移



医師偏在指標

2024年1月10日時点

区分		医師	小児科医師	分娩取扱医師	（参考）構成自治体
二次保健医療圏	広島中央	200.4	75.4	6.0	東広島市、竹原市、大崎上島町
	尾三	198.2	93.4	9.4	三原市、尾道市、世羅町
	福山・府中	201.3	84.4	7.6	福山市、府中市、神石高原町
	岡山県南西部	292.8	121.6	12.8	倉敷市、総社市、早島町、笠岡市、井原市、浅口市、里庄町、矢掛町
都道府県	全国	255.6	115.1	10.5	
	広島県	254.2	101.1	8.6	
	岡山県	299.6	124.3	10.3	

※ **医師偏在指標：**現在・将来人口を踏まえた医療ニーズに基づき、地域・診療科・入院外来ごとの医師の多寡を統一的・客観的に把握し、医師偏在の度合いを示す指標。

人口10万人対医師数の内訳

（人/10万人）

	2010年	2012年	2014年	2016年	2018年	2020年	2022年
三原市	195.5	194.7	195.0	195.2	191.2	199.8	209.3
尾道市	237.2	241.9	229.1	236.6	250.0	258.5	264.6
福山市	198.8	204.0	207.3	204.9	207.5	213.9	226.4
府中市	165.6	151.3	141.9	133.0	139.3	146.2	158.5
竹原市	179.6	174.4	187.6	187.3	197.9	195.1	191.1
世羅町	93.1	101.4	119.1	128.8	138.7	143.1	148.8
神石高原町	72.3	75.2	68.4	71.7	75.0	78.6	117.7
笠岡市	155.3	159.5	152.3	146.4	173.6	185.7	192.3
井原市	93.6	102.5	101.3	106.7	160.3	127.8	121.1
備後圏域	191.1	194.6	194.3	194.2	202.3	207.6	217.4
全国	230.4	237.8	244.9	251.7	258.8	269.2	274.7
広島県	235.9	245.5	252.2	254.6	258.6	267.1	272.6
岡山県	270.3	277.1	287.8	300.4	308.2	320.1	324.0
倉敷市	335.8	340.8	344.9	357.0	365.3	383.3	394.1

人口10万人対小児科医師数の内訳

（人/10万人）

	2010年	2012年	2014年	2016年	2018年	2020年	2022年
三原市	9.9	8.0	8.0	7.2	8.4	7.5	8.9
尾道市	15.5	15.1	13.8	14.0	14.4	12.5	12.9
福山市	10.1	10.7	11.0	10.2	10.6	11.1	11.9
府中市	2.3	2.3	2.4	2.4	2.5	2.6	2.7
竹原市	3.4	0.0	3.5	3.7	3.8	4.0	4.2
世羅町	5.5	5.6	5.7	5.9	6.0	6.2	6.5
神石高原町	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
笠岡市	11.0	15.0	11.4	13.7	18.2	23.0	21.6
井原市	2.2	4.6	4.6	4.7	7.3	5.0	5.2
備後圏域	9.8	10.1	10.0	9.7	10.5	10.5	11.1
全国	12.4	12.8	13.2	13.3	13.7	14.3	14.2
広島県	12.1	12.7	13.0	12.9	13.4	13.3	13.4
岡山県	13.8	14.4	15.4	16.1	16.3	17.1	16.8
倉敷市	16.6	16.3	18.2	19.5	17.9	19.4	19.3

人口10万人対産婦人科医師数の内訳

（人/10万人）

	2010年	2012年	2014年	2016年	2018年	2020年	2022年
三原市	9.9	10.0	9.0	8.2	9.4	6.4	4.4
尾道市	9.4	8.9	9.0	9.1	7.9	8.1	7.6
福山市	7.1	6.9	6.8	7.6	8.7	8.7	9.3
府中市	6.8	4.7	2.4	2.4	2.5	0.0	0.0
竹原市	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2
世羅町	0.0	5.6	0.0	0.0	12.1	12.4	0.0
神石高原町	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
笠岡市	5.5	3.8	5.7	7.8	6.1	6.3	6.5
井原市	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
備後圏域	7.0	6.6	6.4	6.9	7.5	7.2	7.1
全国	8.3	8.6	8.7	9.0	8.9	9.3	9.5
広島県	8.6	8.5	8.5	8.6	8.5	8.7	8.9
岡山県	9.3	9.1	9.9	9.8	9.6	9.2	9.8
倉敷市	10.5	11.1	11.9	11.3	10.8	11.8	12.3

※産婦人科には、産科を含む。

11 介護需要

出典：総務省「令和2年国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、日本医師会「地域医療情報サイト」

推計手法の概要

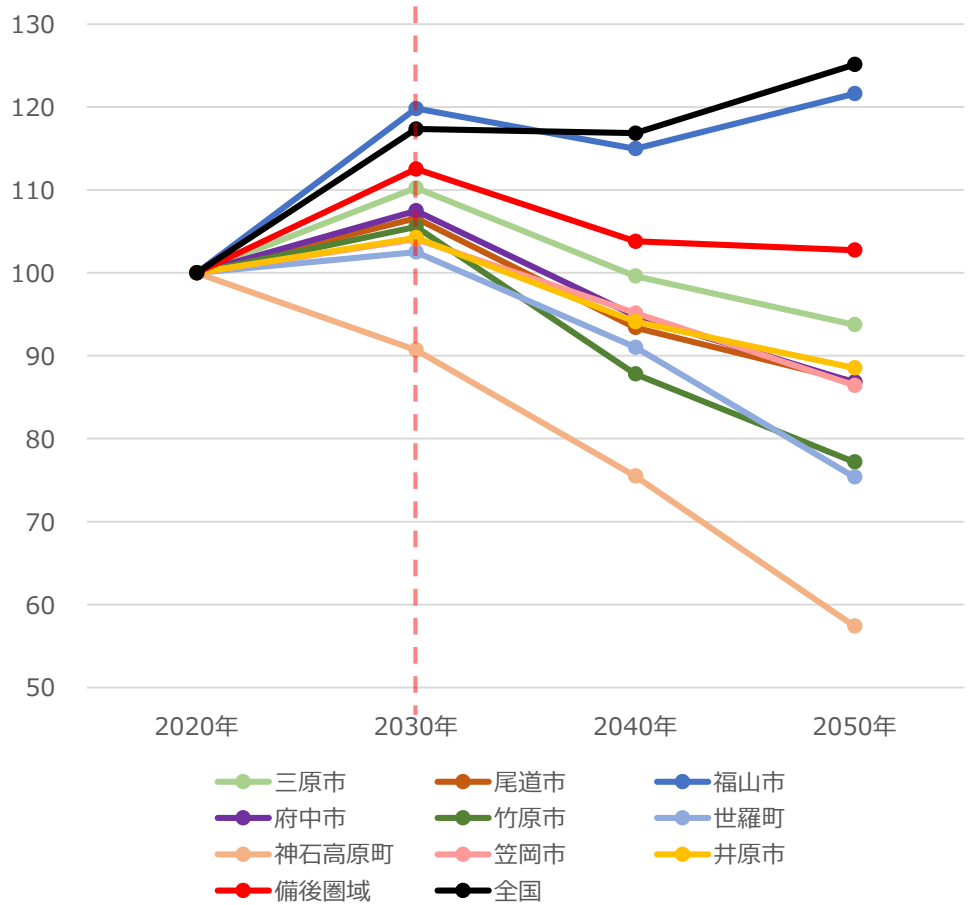
- 年齢階層別の将来推計人口に、日本医師会の介護需要推計に用いられる年齢区分別係数を乗じて推計。

推計結果の概要

- 備後圏域の介護需要は、2030年をピークに減少するが、2020年比で100%以上を維持すると予想される。

介護需要

（2020年実績＝100）



介護需要の内訳

（2020年実績＝100）

	2020年	2030年	2040年	2050年	2020-2050年の増減率
三原市	100.0	110.2	99.6	93.8	-6.2%
尾道市	100.0	106.6	93.4	86.9	-13.1%
福山市	100.0	119.8	115.0	121.6	21.6%
府中市	100.0	107.5	94.8	86.8	-13.2%
竹原市	100.0	105.6	87.8	77.2	-22.8%
世羅町	100.0	102.5	91.0	75.4	-24.6%
神石高原町	100.0	90.7	75.5	57.4	-42.6%
笠岡市	100.0	104.1	95.1	86.4	-13.6%
井原市	100.0	104.2	94.1	88.5	-11.5%
備後圏域	100.0	112.5	103.8	102.7	2.7%
全国	100.0	117.4	116.8	125.1	25.1%

※ **介護需要**：基準年（2020年）を100とし、将来の介護に係る需要の増減を推計したもの。

12-1 駅から半径800m圏内の人口

出典：総務省「令和2年国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、国土交通省「国土数値情報」

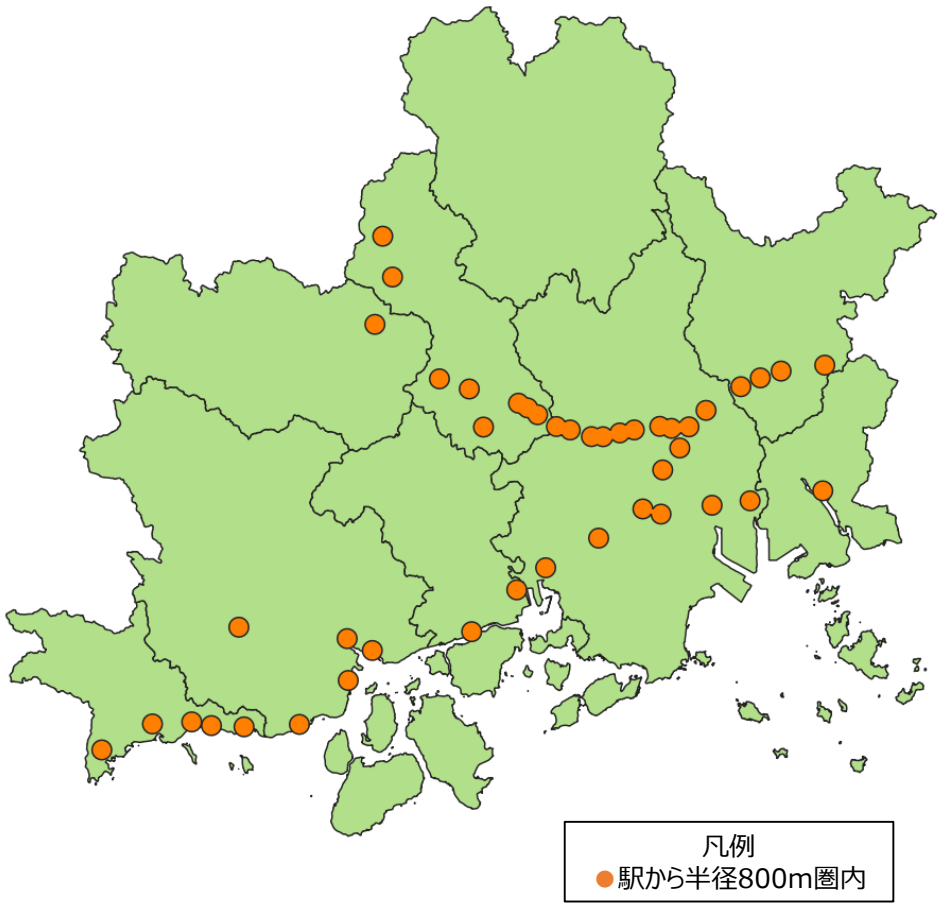
推計手法の概要

- 国土数値情報から各駅の半径800m圏を作成し、その圏内に含まれるメッシュ人口を積み上げて駅から半径800m圏内の人口を推計。

推計結果の概要

- 備後圏域の駅から半径800m圏内の人口は、2050年には2020年と比べ、31.5%減少すると予想される。

駅から半径800m圏のエリア



駅から半径800m圏内の人口の内訳

（人）

	駅から半径800m圏内の人口								
	2020年		2030年		2040年		2050年		2020-2050年の増減率
	人口	カバー率	人口	カバー率	人口	カバー率	人口	カバー率	
三原市	30,651	33.8%	25,773	33.3%	21,355	32.1%	17,356	30.8%	-43.4%
尾道市	40,691	31.0%	36,486	31.4%	31,040	30.6%	25,995	29.6%	-36.1%
福山市	241,712	52.4%	226,836	52.3%	206,540	50.4%	185,626	48.4%	-23.2%
府中市	29,923	79.5%	24,525	78.7%	19,725	76.7%	15,459	74.3%	-48.3%
竹原市	18,150	75.6%	14,213	73.8%	10,571	69.7%	7,829	67.3%	-56.9%
世羅町	634	4.2%	532	4.2%	446	4.2%	357	4.1%	-43.7%
神石高原町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
笠岡市	9,877	21.4%	7,964	20.6%	6,030	19.0%	4,565	18.0%	-53.8%
井原市	20,712	54.0%	17,890	53.9%	14,568	51.6%	11,739	49.8%	-43.3%
備後圏域	392,350	46.0%	354,219	46.1%	310,275	44.7%	268,926	43.2%	-31.5%

※　各市町の人口に対する駅から半径800m圏内の人口のカバー率を記載している。

	駅数	1駅当たりの半径800m圏内の人口			
		2020年	2030年	2040年	2050年
三原市	5	6,130	5,155	4,271	3,471
尾道市	2	20,346	18,243	15,520	12,998
福山市	18	13,428	12,602	11,474	10,313
府中市	8	3,740	3,066	2,466	1,932
竹原市	5	3,630	2,843	2,114	1,566
世羅町	1	634	532	446	357
神石高原町	0	-	-	-	-
笠岡市	1	9,877	7,964	6,030	4,565
井原市	4	5,178	4,473	3,642	2,935
備後圏域	44	8,917	8,050	7,052	6,112

12-2 駅から半径800m圏内の人口（鉄道路線別）

出典：総務省「令和2年国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、国土交通省「国土数値情報」

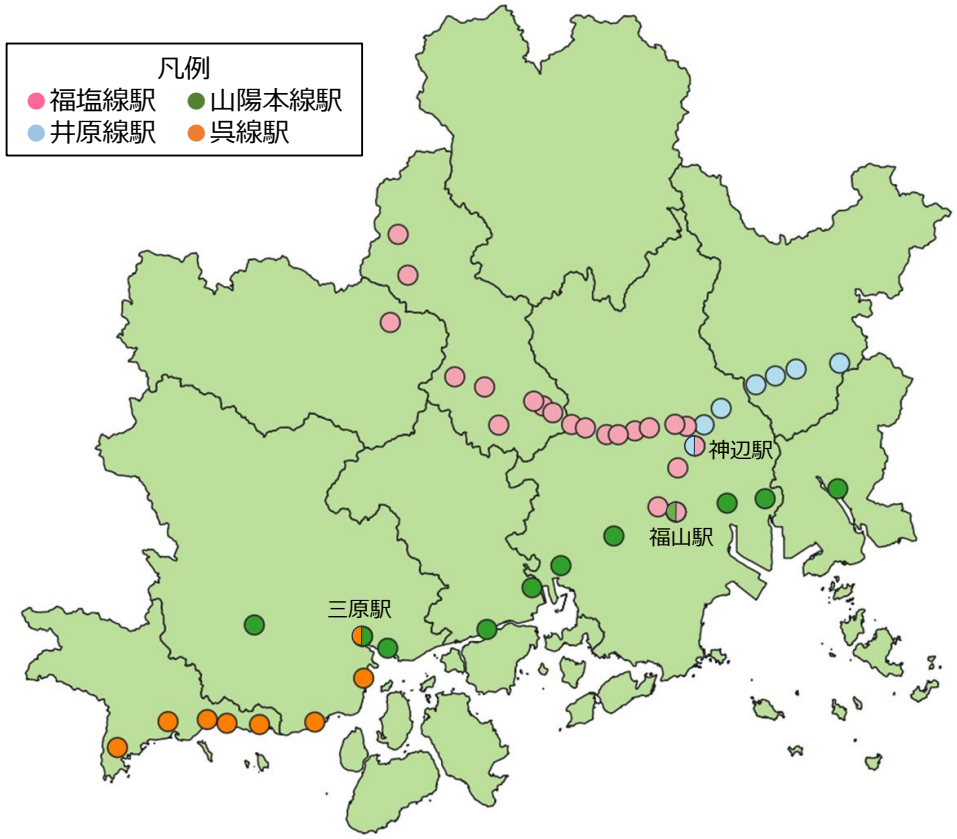
推計手法の概要

- 国土数値情報から各駅の半径800m圏を作成し、その圏内に含まれるメッシュ人口を路線ごとに積み上げて、鉄道路線別の駅から半径800m圏内の人口を推計。

推計結果の概要

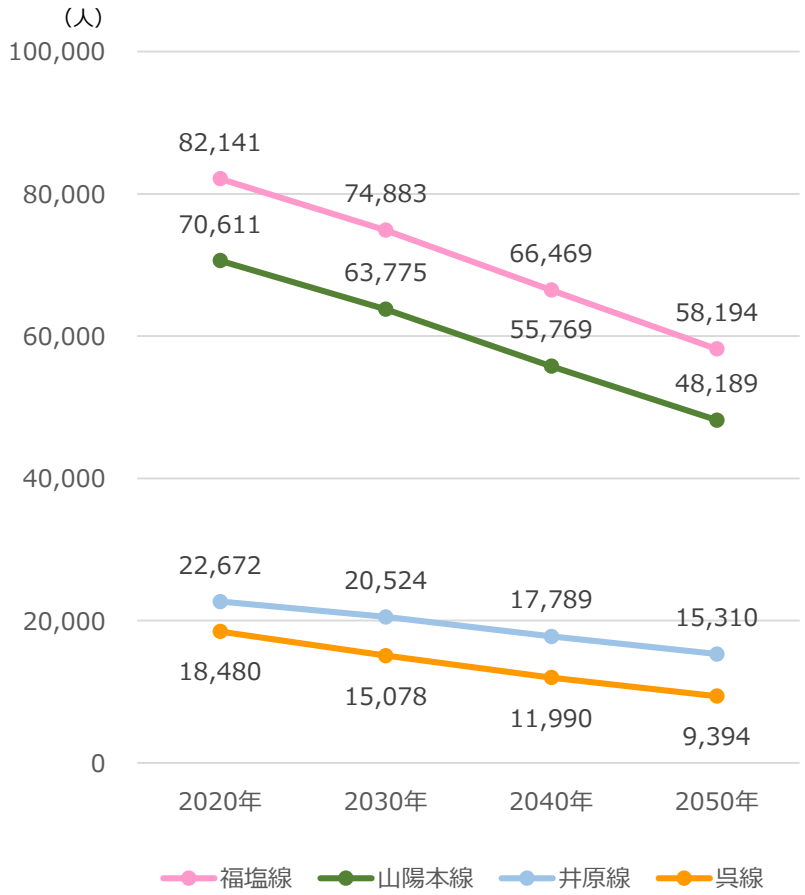
- 備後圏域の鉄道路線別の駅から半径800m圏内の人口は、2050年には2020年と比べ、福塩線で約2万4,000人、山陽本線で約2万2,000人、井原線で約7,000人、呉線で約9,000人減少すると予想される。

鉄道路線別の駅から半径800m圏のエリア



※ 複数路線の駅となっている福山駅、三原駅、神辺駅の圏内の人口は、あん分等をせず各鉄道路線の圏内の人口にそれぞれ計上している。

鉄道路線別の駅から半径800m圏内の人口の内訳



13 バス停から半径300m圏内の人口

出典：総務省「令和2年国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、国土交通省「国土数値情報」

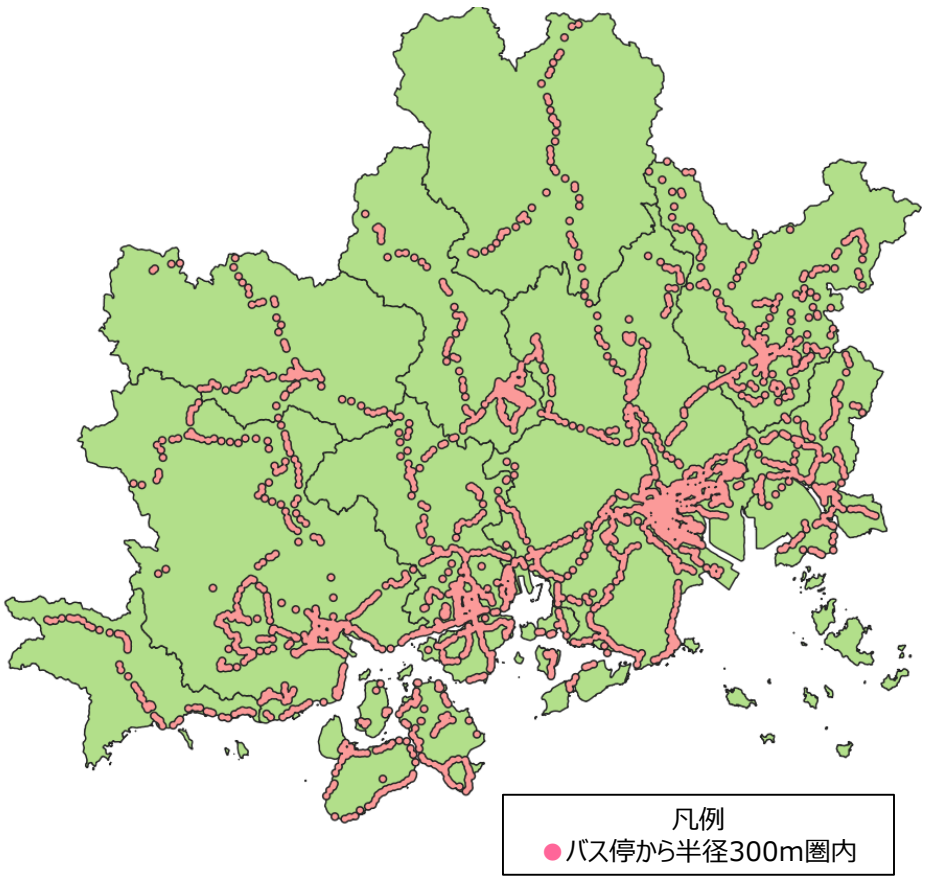
推計手法の概要

- 国土数値情報から各バス停の半径300m圏を作成し、その圏内に含まれるメッシュ人口を積み上げてバス停から半径300m圏内の人口を推計。

推計結果の概要

- 備後圏域のバス停から半径300m圏内の人口は、2050年には2020年と比べ、31.9%減少すると予想される。

バス停から半径300m圏のエリア



バス停から半径300m圏内の人口の内訳

（人）

	バス停から半径300m圏内の人口								
	2020年		2030年		2040年		2050年		2020-2050年の増減率
	人口	カバー率	人口	カバー率	人口	カバー率	人口	カバー率	
三原市	60,788	67.1%	51,170	66.1%	42,558	64.0%	34,706	61.6%	-42.9%
尾道市	97,935	74.7%	87,698	75.4%	75,291	74.2%	63,739	72.5%	-34.9%
福山市	287,265	62.3%	269,950	62.2%	246,150	60.0%	221,281	57.7%	-23.0%
府中市	24,436	64.9%	20,014	64.2%	16,139	62.7%	12,726	61.2%	-47.9%
竹原市	8,963	37.4%	7,061	36.7%	5,331	35.2%	3,978	34.2%	-55.6%
世羅町	4,875	32.2%	4,018	31.5%	3,332	31.2%	2,621	29.9%	-46.2%
神石高原町	1,783	21.6%	1,387	21.6%	1,087	21.7%	823	21.6%	-53.8%
笠岡市	30,357	65.9%	24,622	63.6%	18,814	59.2%	14,358	56.6%	-52.7%
井原市	24,210	63.1%	20,909	63.0%	17,192	60.9%	13,991	59.3%	-42.2%
備後圏域	540,612	63.4%	486,829	63.3%	425,894	61.3%	368,223	59.2%	-31.9%

※　各市町の人口に対するバス停から半径300m圏内の人口のカバー率を記載している。

	バス停数	1バス停当たり半径300m圏内の人口			
		2020年	2030年	2040年	2050年
三原市	380	160	135	112	91
尾道市	586	167	150	128	109
福山市	815	352	331	302	272
府中市	149	164	134	108	85
竹原市	53	169	133	101	75
世羅町	91	54	44	37	29
神石高原町	53	34	26	21	16
笠岡市	161	189	153	117	89
井原市	223	109	94	77	63
備後圏域	2,511	215	194	170	147

14 有収水量（生活用水）

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、広島県「広島県の水道の現況」、岡山県「岡山県水道の現況」

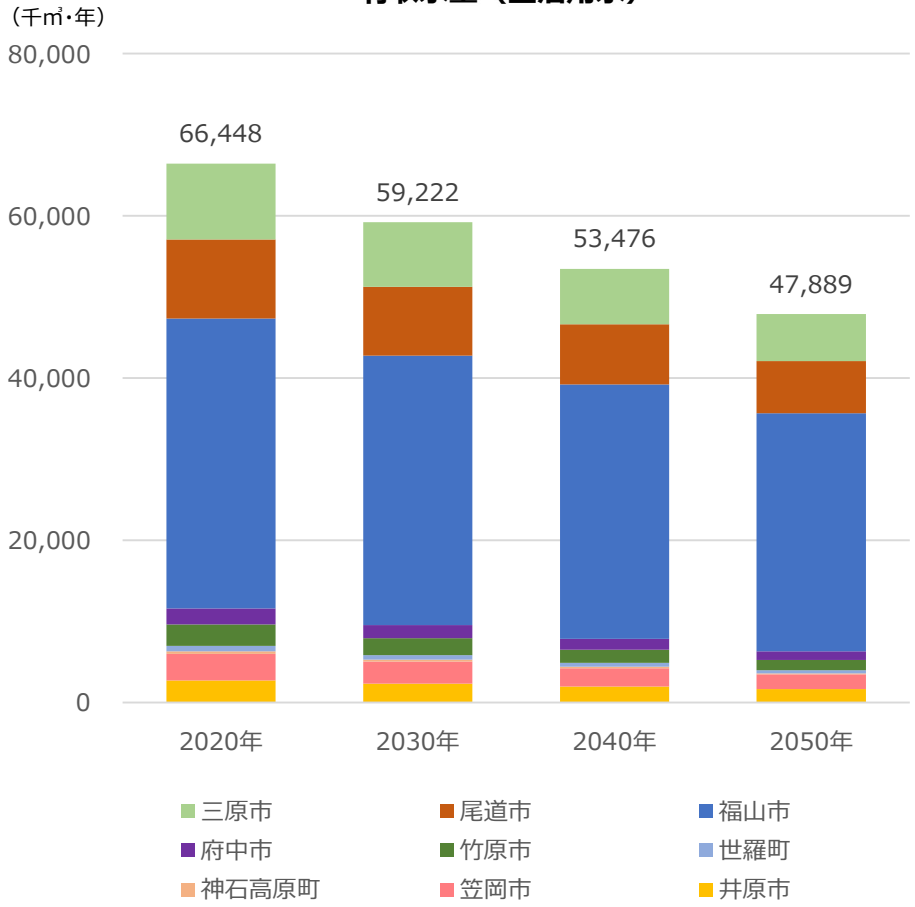
推計手法の概要

- 市町別の将来推計人口に、水道普及率と1人1日当たりの有収水量（生活用水）及び年間の日数（365日）を乗じて、将来の年間の有収水量（生活用水）を推計。

推計結果の概要

- 備後圏域の有収水量（生活用水）は、2050年には2020年と比べ、27.9%減少すると予想される。

有収水量（生活用水）



有収水量（生活用水）の内訳

（千㎥・年）

	2020年	2030年	2040年	2050年	2020-2050年の増減率
三原市	9,339	7,967	6,845	5,802	-37.9%
尾道市	9,763	8,490	7,402	6,411	-34.3%
福山市	35,768	33,222	31,392	29,381	-17.9%
府中市	1,961	1,616	1,334	1,079	-45.0%
竹原市	2,653	2,088	1,643	1,261	-52.5%
世羅町	673	553	463	381	-43.4%
神石高原町	312	233	182	138	-55.7%
笠岡市	3,255	2,744	2,251	1,797	-44.8%
井原市	2,724	2,309	1,964	1,640	-39.8%
備後圏域	66,448	59,222	53,476	47,889	-27.9%

※ **有収水量**：水道料金の徴収対象となる水量。

15 家庭ごみ排出量

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計」、環境省「廃棄物処理技術情報（処理状況）」

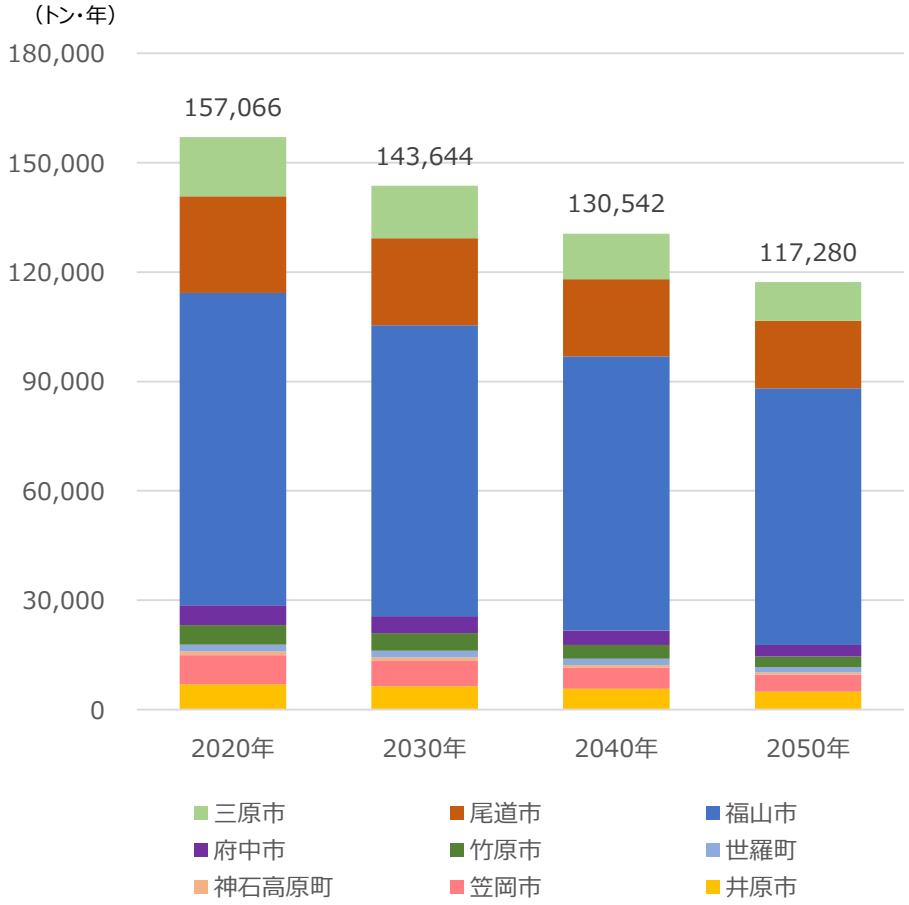
推計手法の概要

- 1人1日当たりの家庭ごみ排出量の過去5年分の増減率から、将来の1人1日当たりの家庭ごみ排出量を推計。
- 将来の1人1日当たりの家庭ごみ排出量に、市町別の将来推計人口及び年間の日数（365日）を乗じて、将来の年間の家庭ごみ排出量を推計。

推計結果の概要

- 備後圏域の家庭ごみ排出量は、2050年には2020年と比べ、25.3%減少すると予想される。

家庭ごみ排出量



家庭ごみ排出量の内訳

（トン・年）

	2020年	2030年	2040年	2050年	2020-2050年の増減率
三原市	16,242	14,330	12,490	10,685	-34.2%
尾道市	26,570	23,943	21,128	18,444	-30.6%
福山市	85,635	79,742	75,282	70,416	-17.8%
府中市	5,489	4,684	3,936	3,220	-41.3%
竹原市	5,310	4,798	3,759	2,877	-45.8%
世羅町	1,855	1,890	1,733	1,511	-18.5%
神石高原町	1,088	935	757	589	-45.8%
笠岡市	7,966	6,913	5,772	4,662	-41.5%
井原市	6,910	6,408	5,684	4,876	-29.4%
備後圏域	157,066	143,644	130,542	117,280	-25.3%

※ **家庭ごみ**：家庭から出るごみのうち、集団回収により回収されたごみや資源ごみを除いたもの。

16 避難行動要支援者数

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、各市町「避難行動要支援者数」、総務省「住民基本台帳人口」

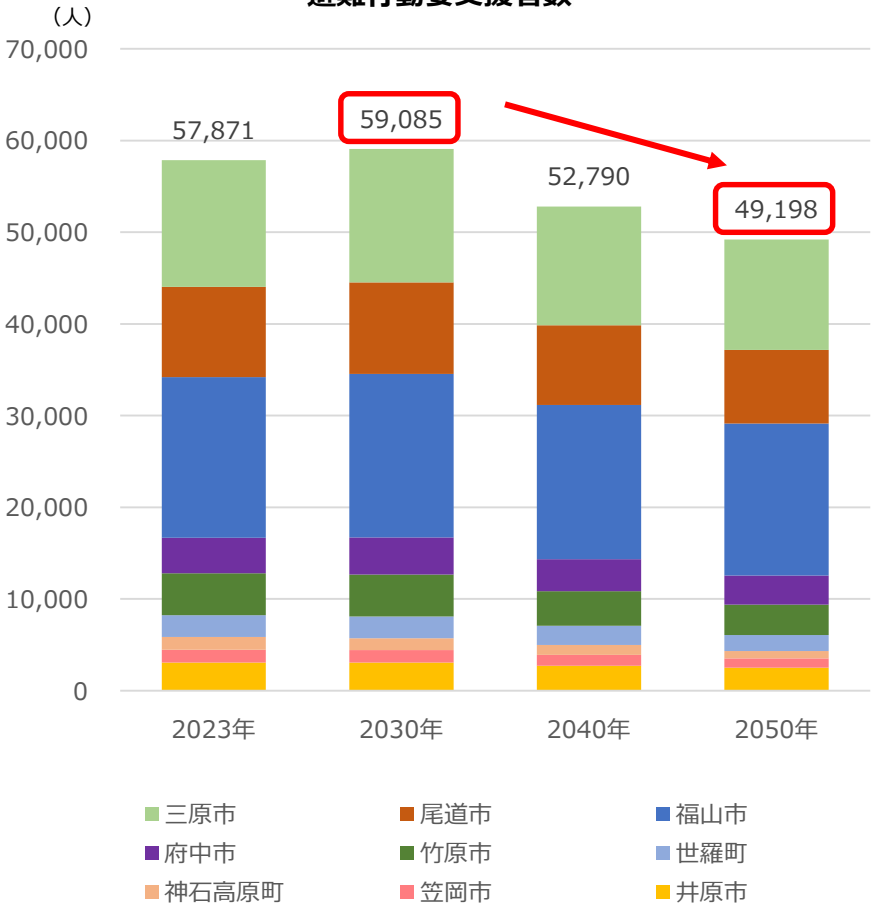
推計手法の概要

- 2023年の避難行動要支援者数を住民基本台帳人口で除して避難行動要支援者割合を算定し、その値に市町別の将来推計人口を乗じて推計。

推計結果の概要

- 備後圏域の避難行動要支援者数は、2030年に約5万9,000人まで増加するが、2050年には約4万9,000人まで減少することが予想される。

避難行動要支援者数



避難行動要支援者数の内訳

（人）

	2023年	2030年	2040年	2050年	2023-2050年の増減率
三原市	13,827	14,544	12,927	12,035	-13.0%
尾道市	9,854	10,003	8,688	8,009	-18.7%
福山市	17,520	17,819	16,835	16,602	-5.2%
府中市	3,868	4,041	3,503	3,177	-17.9%
竹原市	4,558	4,598	3,765	3,303	-27.5%
世羅町	2,367	2,368	2,099	1,726	-27.1%
神石高原町	1,397	1,286	1,080	814	-41.7%
笠岡市	1,406	1,343	1,165	1,006	-28.4%
井原市	3,074	3,083	2,729	2,524	-17.9%
備後圏域	57,871	59,085	52,790	49,198	-15.0%

※ **避難行動要支援者**：高齢者や障がい者など、災害が起こったときに自分や家族の力だけでは安全な場所に避難することが難しく、周囲の人の手助けが必要な人のこと。なお、各市町によって対象は異なる。

17 救急搬送人員

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、各市町「救急搬送人員（年齢階層別）」、総務省「住民基本台帳人口」

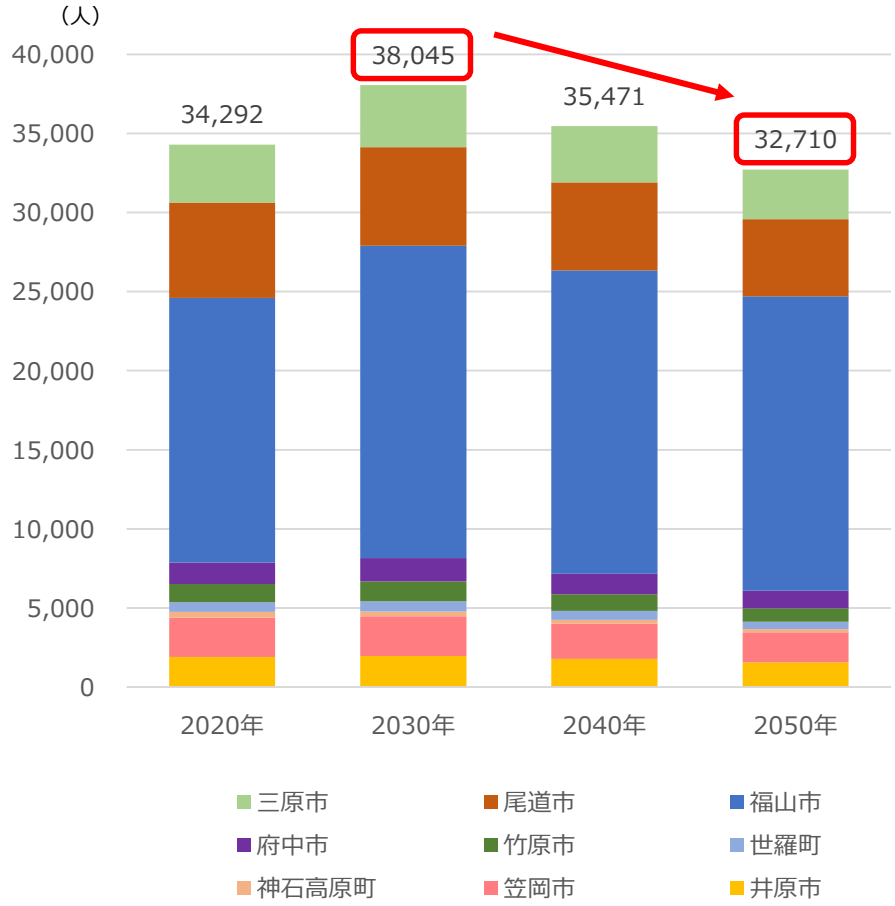
推計手法の概要

- 過去5年の平均救急搬送人員を住民基本台帳人口で除して年齢階層別の救急搬送発生率を算定し、その値に市町別の年齢階層別の将来推計人口を乗じて推計。

推計結果の概要

- 備後圏域の救急搬送人員は、2030年に約3万8,000人まで増加するが、2050年には約3万3,000人まで減少することが予想される。

救急搬送人員



救急搬送人員の内訳

（人）

	2020年	2030年	2040年	2050年	2020-2050年の増減率
三原市	3,660	3,925	3,571	3,125	-14.6%
尾道市	6,031	6,230	5,561	4,890	-18.9%
福山市	16,727	19,743	19,169	18,615	11.3%
府中市	1,364	1,465	1,298	1,104	-19.0%
竹原市	1,151	1,267	1,049	859	-25.4%
世羅町	595	640	569	463	-22.2%
神石高原町	367	307	255	193	-47.4%
笠岡市	2,498	2,509	2,226	1,897	-24.0%
井原市	1,899	1,958	1,773	1,564	-17.6%
備後圏域	34,292	38,045	35,471	32,710	-4.6%

18 空き家数

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、総務省「国勢調査」・「住宅・土地統計調査」、広島県「空き家対策対応指針」

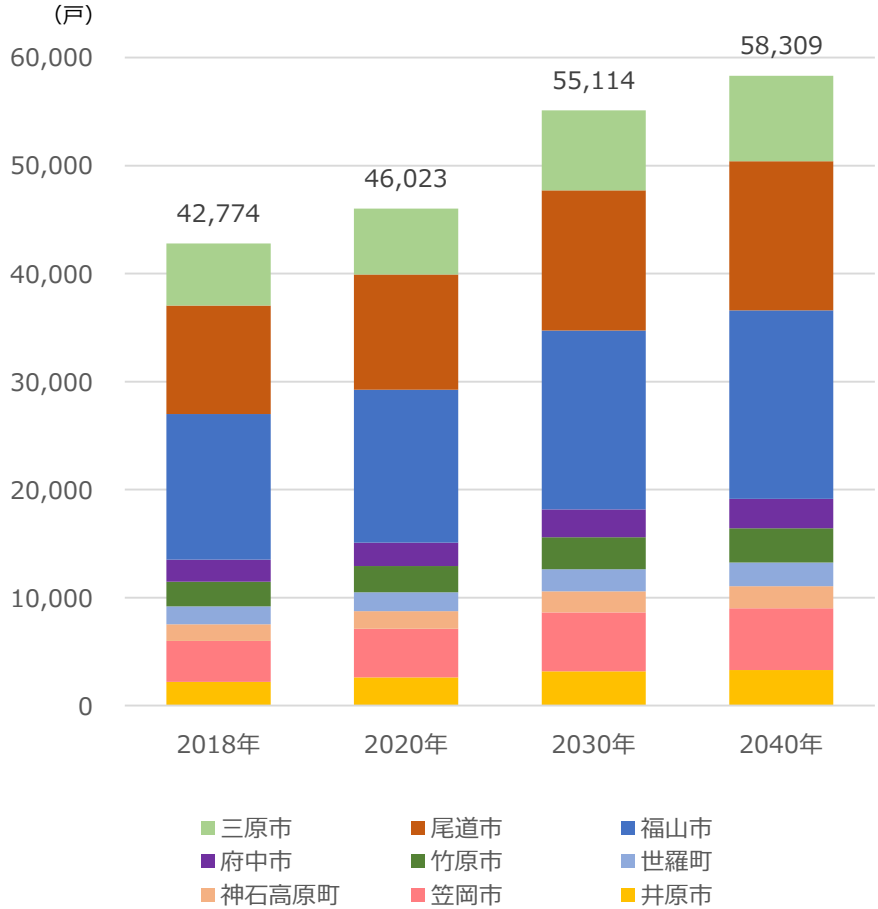
推計手法の概要

- 国勢調査や住宅・土地統計調査から、65歳以上の人口割合や75歳以上の単身世帯割合を用いて、将来の広島県と岡山県の空き家数を推計。
- 将来の広島県と岡山県の空き家数に市町別の空き家比率を乗じて、将来の空き家数を推計。

推計結果の概要

- 備後圏域の空き家数は、2040年には2018年と比べ、36.3%増加すると予想される。

空き家数



空き家数の内訳

（戸）

	2018年	2020年	2030年	2040年	2018-2040年の増減率
三原市	5,730	6,099	7,413	7,900	37.9%
尾道市	10,040	10,679	12,957	13,802	37.5%
福山市	13,470	14,147	16,560	17,455	29.6%
府中市	2,050	2,166	2,579	2,732	33.3%
竹原市	2,290	2,441	2,979	3,178	38.8%
世羅町	1,650	1,738	2,052	2,169	31.5%
神石高原町	1,554	1,639	1,944	2,056	32.3%
笠岡市	3,790	4,501	5,461	5,705	50.5%
井原市	2,200	2,612	3,170	3,312	50.5%
備後圏域	42,774	46,023	55,114	58,309	36.3%

※ 2018年の住宅・土地統計調査が最新のデータであり、2020年以降が推計値となっている。

19 耕地面積

出典：農林水産省「作物統計調査」

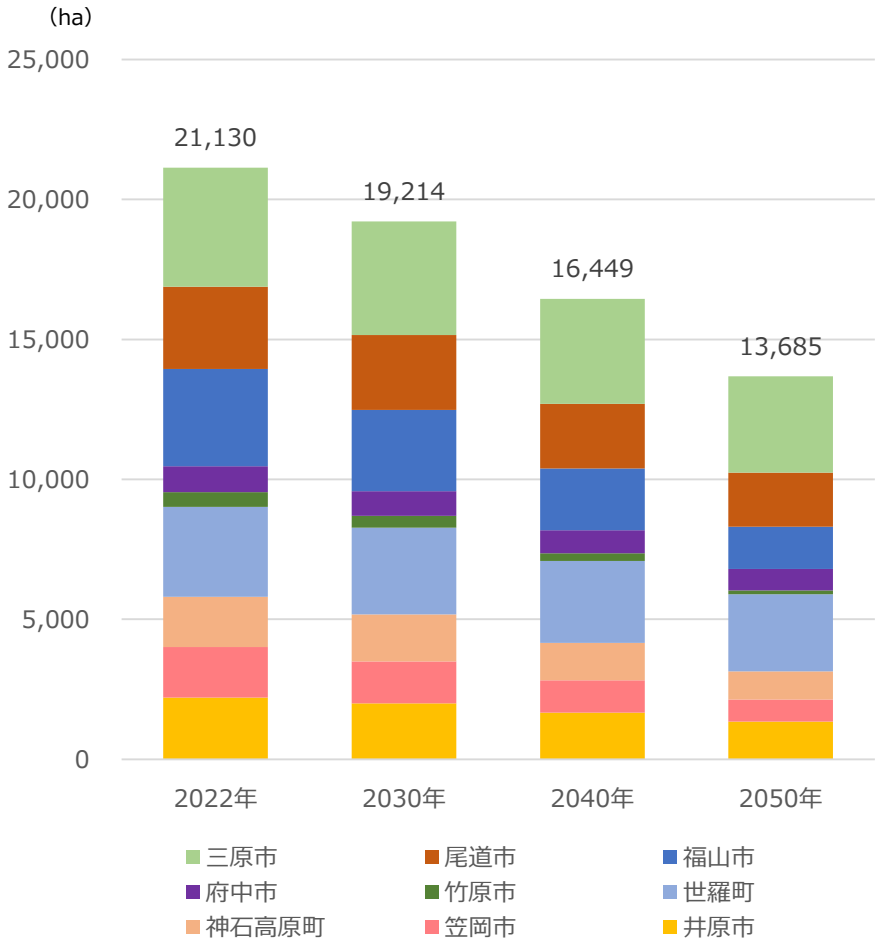
推計手法の概要

- 作物統計調査における直近10年分の圏域市町の耕地面積の増減率から、将来の耕地面積を推計。

推計結果の概要

- 備後圏域の耕地面積は年々減少傾向にあり、2050年には2022年と比べ、35.2%減少すると予想される。

耕地面積



耕地面積の内訳

(ha)

	2022年	2030年	2040年	2050年	2022-2050年の増減率
三原市	4,250	4,056	3,753	3,451	-18.8%
尾道市	2,940	2,683	2,303	1,922	-34.6%
福山市	3,470	2,900	2,209	1,518	-56.2%
府中市	931	883	823	762	-18.2%
竹原市	519	419	275	132	-74.6%
世羅町	3,220	3,098	2,931	2,765	-14.1%
神石高原町	1,790	1,675	1,335	996	-44.4%
笠岡市	1,810	1,505	1,151	796	-56.0%
井原市	2,200	1,993	1,669	1,344	-38.9%
備後圏域	21,130	19,214	16,449	13,685	-35.2%

※ **耕地**：農作物の栽培を目的とする土地のこと。畦畔を含む。

20 森林面積

出典：農林水産省「農林業センサス（農山村地域調査）」

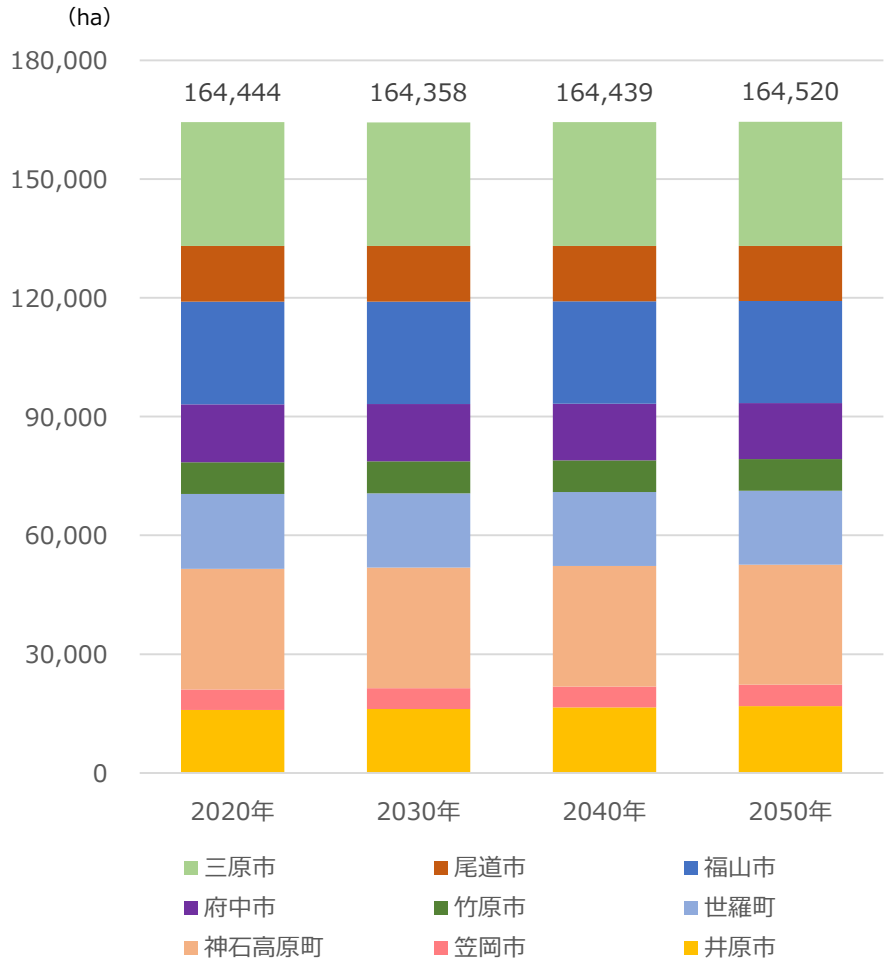
推計手法の概要

- 農林業センサス（農山村地域調査）における直近10年分の圏域市町の森林面積の増減率から、将来の森林面積を推計。

推計結果の概要

- 備後圏域の森林面積は直近10年間、16万4,000ha前後で推移しており、2050年においても2020年と比べ、ほぼ変わらないと予想される。

森林面積



森林面積の内訳

(ha)

	2020年	2030年	2040年	2050年	2020-2050年の増減率
三原市	31,286	31,213	31,283	31,353	0.2%
尾道市	14,103	14,055	14,007	13,959	-1.0%
福山市	25,969	25,908	25,842	25,776	-0.7%
府中市	14,641	14,504	14,339	14,174	-3.2%
竹原市	8,012	8,010	8,007	8,004	-0.1%
世羅町	18,894	18,809	18,715	18,621	-1.4%
神石高原町	30,502	30,462	30,414	30,366	-0.4%
笠岡市	5,164	5,238	5,327	5,416	4.9%
井原市	15,873	16,161	16,507	16,853	6.2%
備後圏域	164,444	164,358	164,439	164,520	0.0%

21 就業率

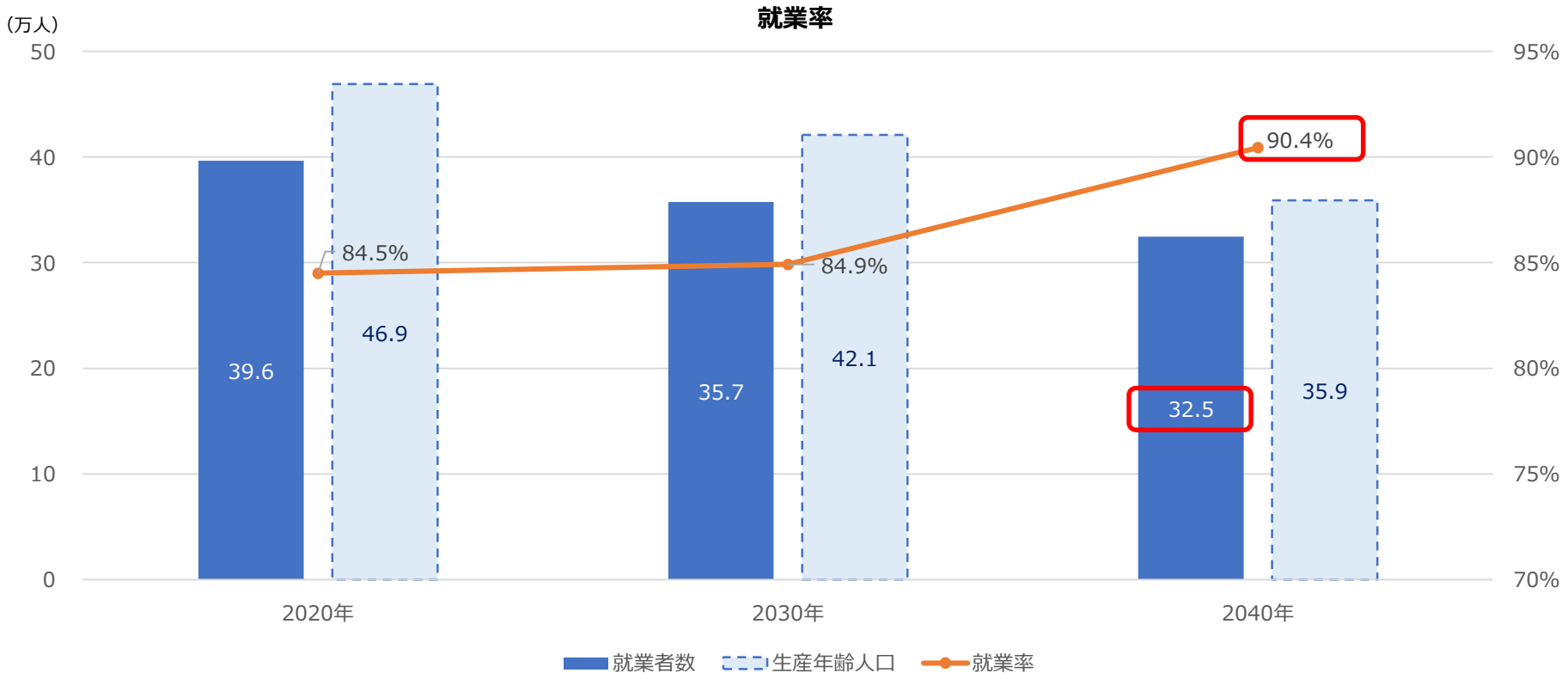
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、独立行政法人 労働政策研究・研修機構「労働力需給の推計―全国推計（2018年度版）を踏まえた都道府県別試算―」

推計手法の概要

- 市町別の将来推計人口に年齢階層別の将来の就業率（15-90歳以上：県単位）を乗じて、将来の就業者数を推計。
- 将来の従業者数を将来の生産年齢人口で除して、就業率を推計。

推計結果の概要

- 備後圏域の就業者数は、2040年には2020年と比べ、約7万2,000人減少する。就業者数は減少するものの、生産年齢人口の減少も進むことから、就業率は2040年には2020年と比べ、5.9ポイント増加する。
- 国が示すＧＤＰ成長予測（ベースラインケース）に沿った経済成長の実現のためには、備後圏域の生産年齢人口の90.4%にあたる32.5万人の就業が必要となる。



※**就業率**：就業者数（全年齢）÷生産年齢人口（15-64歳）で算定。就業者数には、定年後の就業者も含む。

※**ベースラインケース**：女性や高齢者の雇用が一定程度進み、労働参加率が63.8%程度を達成し、経済成長が直近平均0.5%程度で推移するケース。

22 産業別就業者数

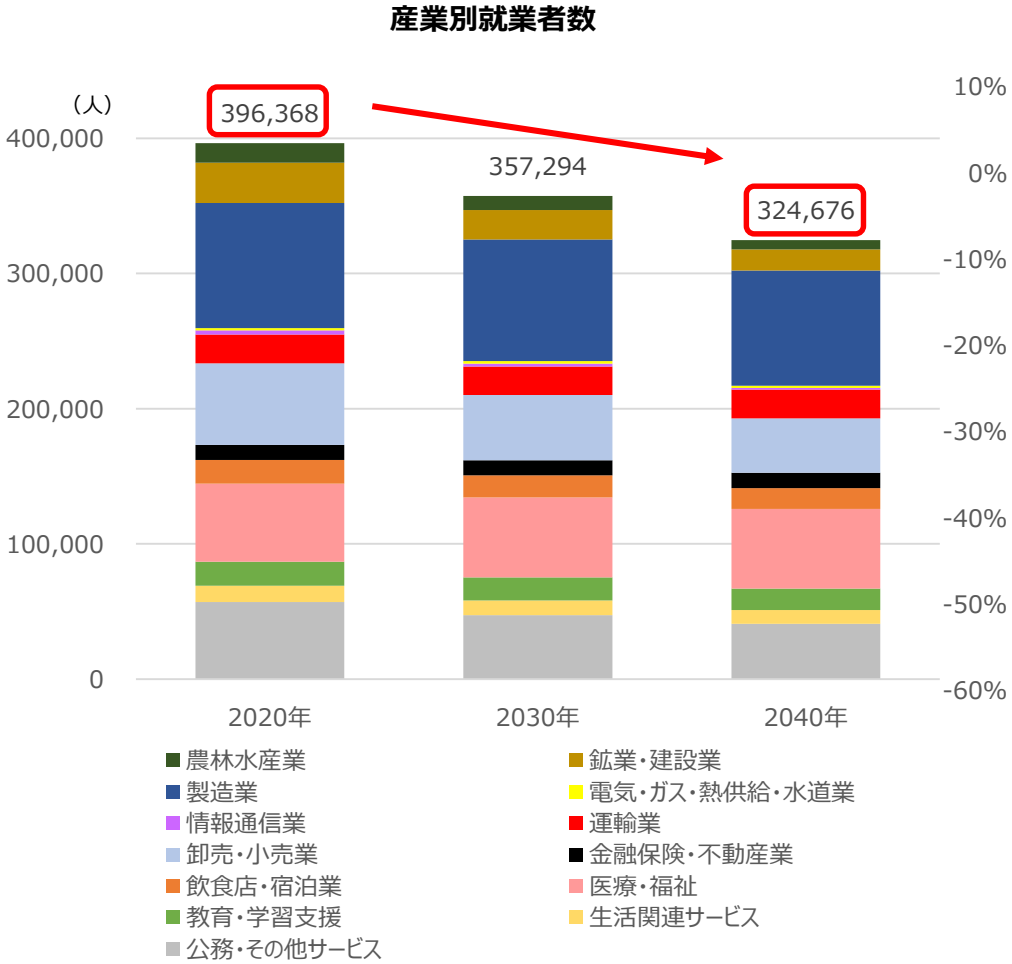
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」、独立行政法人 労働政策研究・研修機構「労働力需給の推計―全国推計（2018年度版）を踏まえた都道府県別試算―」、総務省「令和2年国勢調査」

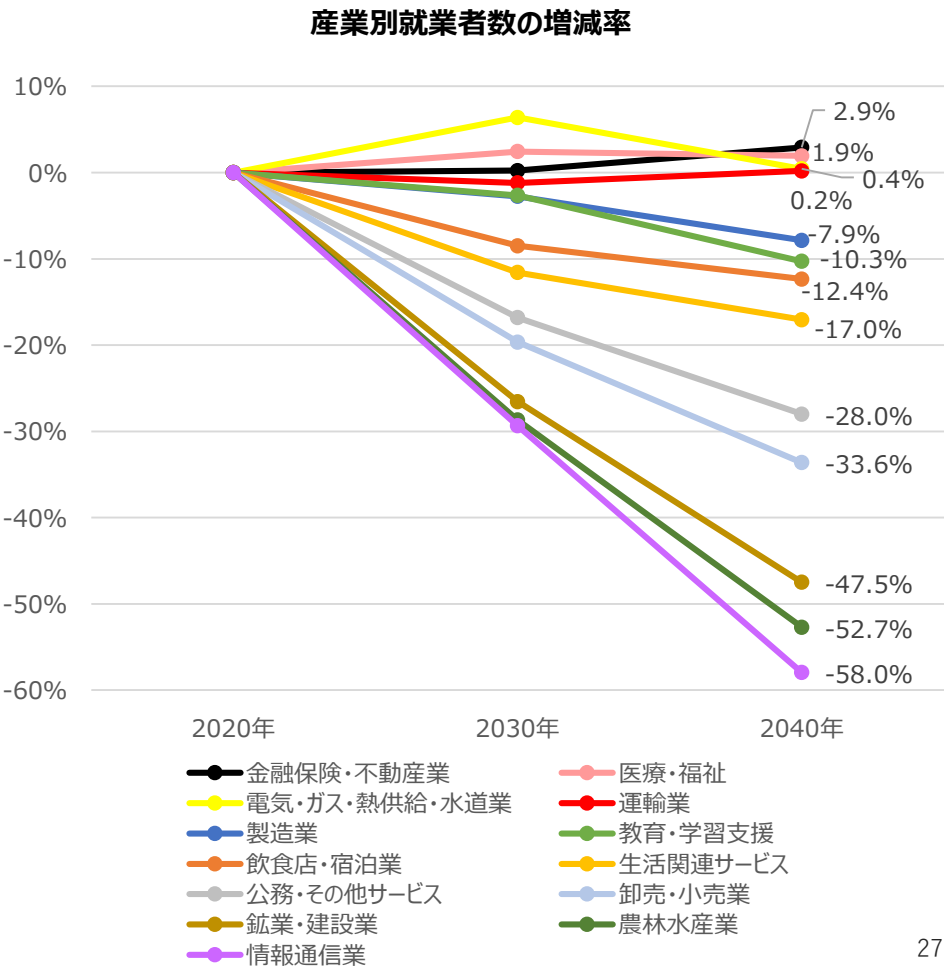
推計手法の概要

- 2020年の産業別就業者数に将来の労働力需要の増減率を乗じて、将来の産業別就業者数割合を推計。
- 将来の就業者数と産業別就業者割合を乗じて、将来の産業別就業者数を推計。

推計結果の概要

- 備後圏域の就業者数は2040年までに約7万2,000人減少し、製造業では約7,000人の減少が予想される。
- 産業別では農林水産業と情報通信業の就業者数が50%以上減少する一方で、金融保険・不動産業や医療・福祉では増加することが予想される。





産業別就業者数の内訳

	2020年	2030年		2040年	
	従業者数（人）	従業者数（人）	増減率（%）	従業者数（人）	増減率（%）
農林水産業	14,520	10,355	-28.7%	6,866	-52.7%
鉱業・建設業	29,878	21,941	-26.6%	15,686	-47.5%
製造業	92,464	89,919	-2.8%	85,198	-7.9%
電気・ガス・熱供給・水道業	1,598	1,700	6.4%	1,605	0.4%
情報通信業	3,085	2,179	-29.4%	1,297	-58.0%
運輸業	21,298	21,045	-1.2%	21,341	0.2%
卸売・小売業	60,311	48,455	-19.7%	40,032	-33.6%
金融保険・不動産業	11,083	11,109	0.2%	11,408	2.9%
飲食店・宿泊業	17,705	16,201	-8.5%	15,518	-12.4%
医療・福祉	57,781	59,189	2.4%	58,898	1.9%
教育・学習支援	17,588	17,123	-2.6%	15,779	-10.3%
生活関連サービス	12,180	10,770	-11.6%	10,103	-17.0%
公務・その他サービス	56,877	47,308	-16.8%	40,945	-28.0%
合計	396,368	357,294	-9.9%	324,676	-18.1%